HASP の非定常熱負荷計算

# (1) 実行編

---- 目次 ----

<〇部> – 事前の準備/HASPinn を使う前にすること		1
(1) Excel のマクロを有効にする		1
(2) HASPinp の実行モジュールをセキュリティーソフ	トのチェックから外す	1
<i部> HASPinp を使わずに手動で HASP を操作する方法</i部>	<b>去</b> (ACLD_HEX15 を例に)	2
1. HASP を手動で実行するために頭に入れておくこと		3
(1) HASP のフォルダとファイル構成 (a) 左矢データ	<ul><li>(2) 人力データ</li><li>(1) らいいろう (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)</li></ul>	3
<ul> <li>(3) 気象アーダ</li> <li>(5) バッチファイル</li> </ul>	(4) InameHASP_1np.txt (6) 絶対パフ(フルパス)と相対パス	3
2 HASP を手動で動かす		6
(1) 年間計算の実行	(2) 冷房ピーク計算の実行	6.8
(3) 暖房ピーク計算の実行		10
3.入力データにエラーがあった場合		12
<Ⅱ部> HASPinp による HASP の実行 (ACLD_HEX15_inp を	例に)	13
1. HASPinp とは		14
(1) ユーザーインターフェースとしての HASPinp	(2) 2 つの HASPinp	14
(3) HASPinp の実行モジュールと Excel ファイル	(4) HASPinp のフォルダとファイルの構成	14, 15
(5) HASPIND の操作と動作の流れ <b>9 HASPinn にトスケーススタディ</b>		16 17
<ol> <li>(1) 建物モデルと計算条件</li> </ol>	(2) HASPinn を立ち上げる	17.18
(3) ユーザーが操作する HASPinp の3つの画面		19
(4) 4つのケーススタディ(計算モードと出力形式)		22
(5) 計算モード (シミュレーションモードとピーク計	算) (6) 出力形式(詳細出力と簡易出力)	22
2-1 ケース1:年間計算・詳細出力		23
<ul> <li>(1) 八刀 一ク 0 確認</li> <li>(9) プロガラムの実行(ファイル変換・執負荷計算・</li> </ul>	ゾーン作計)	$\frac{23}{24-25}$
<ul> <li>(4) 結果のグラフ</li> </ul>		29 29
2-2 ケース2:ピーク計算・詳細出力		31
(1) 冷房ピーク計算の入力データの変更		31
(2) 冷房ピーク計算のプログラムの実行(ファイル変	換・熱負荷計算・ゾーン集計)	32-33
(3) 暖房ビーク計算の人力ナータの変更	始, 劫 <u>去</u> 走到 竺 、 、 、 大 <u></u> ( 走 司 )	34
(4) 岐方ビーク計算のフロクラムの美1」(ファイル変) (5) 結果のグラフ	(6) 結果の保存	40 41
2-3 ケース3:年間計算・簡易出力		42
(1) 入力データの変更		42
(2) プログラムの実行(ファイル変換・熱負荷計算・	ゾーン集計)	42-43
		47
2-4 クース4:Cーク訂昇・間汤田刀 (1) 公 アピーク 計算の入力データの 変更		49 79
(1) 作坊に ショチのパカノ ノの友文 (2) 冷房ピーク計算のプログラムの実行(ファイル変	換・熱負荷計算・ゾーン集計)	49-50
(3) 暖房ピーク計算の入力データの変更		51
(4) 暖房ピーク計算のプログラムの実行(ファイル変	換・熱負荷計算・ゾーン集計)	51-52
(5) 結果のグラフ	(6) 結果の保存	56, 57
3. HASPinp での未入力エラーの見つけ方		58
〈Ⅲ部〉 気象データ		60
1. HASP に組込まれている気象データ		61
2. 风家アータの追加登録の方法 3. HASDinnの気象データの絵壺と白動カスタマイブのF	十約 乙	62 65
<ul> <li>4 has 気象データと hasH 気象データ</li> </ul>	⅃ℼℶℭ╱	66 66
5. hasH 気象データの先頭行の情報		68
6.祝日情報		69
		<b>-</b> ·
<b>参</b> 考貸料		71

Ver. 20220330-0707

(社) 建築設備技術者協会

# <O部> 事前の準備/HASPinp を使う前にすること

- ・HASProotとHASPinpのインストールは(0)導入編で済ませたものとします。
- ・このまますぐに操作しても問題無いこともありますが、念のため以下の設定をしてください。

#### (1) Excel のマクロを有効にする

※<I部>のHASPinpを使わないで手動で操作する場合は、本節(1)の設定は不要です。

・HASPinpのExcelファイルにはマクロが組み込まれています。 OriginalFilesのフォルダに5つのExcelファイルがありますが、これらのExcelファイルのマクロ を有効にしなければなりません。

・Excelのファイルを立ち上げた時に、マクロが無効の場合は次のメッセージが表示されます。



 ・表示の中の コンテンツの有効化 をクリックすると、マクロが有効になり、正常に動作するように なります。

#### (2) HASPinp の実行モジュールをセキュリティーソフトのチェックから外す

- ・全てのセキュリティーソフトではありませんが、中には、そのソフトに未登録な実行モジュールをチェックして、動作を止めたり、実行モジュールそのものを削除してしまうことがあります。
- ※Norton では HASP inp の実行モジュールやバッチファイルを削除することがあります。 この場合は、次のようにして、Norton のチェック対象から外します。
  - ・Nortanを立ち上げます。次の手順で①と②の除外設定をします。
    - ①設定  $\Rightarrow$  ウイルス対策  $\Rightarrow$  スキャンとリスク  $\Rightarrow$  スキャンから除外する項目  $\Rightarrow$  設定する  $\Rightarrow$  フォルダを追加する
    - ②設定 ⇒ ウイルス対策 ⇒ スキャンとリスク ⇒ 自動保護、スクリプト制御・・・除外する項目 ⇒ 設定する ⇒ フォルダを追加する
    - ※ ①②の両方とも設定します。これで HASPinp は正常に動作するようになります。
    - ※「フォルダを追加する」を選ぶとフォルダごと除外対象になります。 「ファイルを追加する」を選んだ場合は、個々のファイル単位で除外設定をします。

# <I部>HASPinpを使わずに手動でHASPを操作する方法 (ACLD\_HEX15を例に)

- 1. HASPinp を手動実行するために頭に入れておくこと
- 2. HASP を手動で動かす
- 3. 入力エラーがあった場合

# 1. HASP を手動で実行するために頭に入れておくこと

# (1) HASP のフォルダとファイル構成 (⇒図 I)

- ・図 I-1 に HASProot と HASPinp のフォルダとファイルの構成を示します。
- ・HASP を手動で操作する時は、この図 I-1 のフォルダやファイルの位置関係を頭に入れておく必要が があります。
- ・図 I-1の各行の頭の数字は、根っこの HASProotを基準0とする階層の深さを示しています。

## ・説明分中の"矢印"は手動の操作で扱うファイルの位置を示しています。図 I-1の矢印と符号します。

- ・ 矢印① sample\_Input.txt (熱負荷計算の入力データファイル)
- ・矢印② 計算に使う気象データファイル
- ・矢印③ fnameHASP\_inp.txt (HASP の実行に関係するファイル名やパスをカスタマイズします)
- ・矢印④ ACLD\_HEX15. bat (バッチファイルで HASP の実行はここから始まります)
- ・矢印⑤ ACLD HEX15. exe (熱負荷計算プログラムの本体の実行モジュール)
- ・矢印⑥ 計算結果を出力したファイル
- ・矢印⑦ ACLD\_HEX15\_debug.txt (入力データのエラー情報はここに記録されます)

# (2) 入力データ

・入力データを所定のフォーマットに従って作成しなければなりませんが、 ここでは、予め作成された入力データ sample\_Input.txt(表 I-2)を利用することにします。

## (3) 気象データ

・気象データは、図Ⅰ-1の HASProot¥Data¥Weather の下のフォルダに登録されているものを使います。
 ※ここに登録されている気象データは MetDS(株)気象データシステムのご厚意により無償提供されたものです。
 HASP での利用に限定されます。また、気象データのコピーなども禁じられています。

#### (4) fnameHAP\_inp, txt (⇒下表 I -1)

- ・fnameHASP\_inp.txt は、HASPinp を実行するために必要なファイル名やパス等の情報を記述したファ イルです。HASPinp の全ての実行モジュールは、起動されると最初にこの fnameHASP\_inp.txt を読み 込み、実行に必要な情報を得るように仕組まれています。
- ・この fnameHASP\_inp. txt は、実行条件に合わせて一部を書き替える (カスタマイズ) 必要があります。
- ・カスタマイズするのは、1行目、2行目と12行目です。
   なお12行目はHASPinpのExcelファイルと実行モジュールACLD\_HEX15.exeとの連係情報です。
   HASPinpを使わずに、手動で操作する場合でも、ここは毎回の実行の前に"00"にリセットします。

1)	¥¥***** ⇒ ******の箇所を矢印①の入力データのファイル名に書き替えます。
2)	¥¥¥Data¥Weather¥***** ⇒ *****の箇所を矢印②の気象データのパスとファイル名に書き替えます。
3)	¥¥ ⇒ 計算結果を出力する⑤のフォルダのパスです。
4)	¥¥HASP¥NewHASP-ACLD¥Exec¥wndwtabl.dat ⇒ ガラスの特性のパスとファイル名
5)	¥¥¥HASP¥NewHASP-ACLD¥Exec¥wcontabl.dat ⇒ 材料特性のパスとファイル名
6)	-aACSS → ACSS への受け渡しファイル(先頭が空白または"-"の時は出力しません)
7)	- → BECS への受け渡しファイル(先頭が空白または"-"の時は出力しません)
8)	DEBG INP=9 CK=9 WF=9 WD=9 CL=0 HE=0 0P=0 nRM=0000 MDse=・・・・ ⇒ 実行モジュールのデバッグオプション
9)	¥¥KeepOut¥CSV_inp¥*****_COMMON.csv ⇒ 手動で動かす場合は関係しません。
10)	¥¥KeepOut¥CSV_inp¥*****_SPAC.csv ⇒ 手動で動かす場合は関係しません。
11)	¥¥KeepOut¥CSV_inp¥*****_ZONE.csv ⇒ 手動で動かす場合は関係しません。
12)	00 → HASPinpのExcelファイルと実行モジュールとの連係情報で毎回 00 にリセットします。

表 I-1 fnameHASP\_inp.txt

※ 元々の NewHASP/ACLD の fnameNewHASP. txt は 1~7 行ですが、 HASP inp の fnameHASP\_inp. txt では 8~12 行が追加されています。



- (5) バッチファイル (⇒表 I -2)
- ・表 I -2 が矢印④のバッチファイル(ACLD\_HEX15. bat)の中味です。このバッチファイルによって、矢印⑤の 熱負荷計算(ACLD\_HEX15. exe)が起動されます。
  - ※ACLD\_HEX15. exe の実行モジュールを直接クリックしても起動しますが、矢印③の fnameHASP\_inp. txt と連係でき ないので、直ぐに停止してしまいます。





- ・図 I-1 で、バッチファイルは矢印④の位置にあり、実行モジュールは矢印⑤にあって離れています。 矢印④から、離れた矢印⑤を起動するのが表 I-2の7行目のコマンドです。
- ・このバッチファイルを手動で動かすと、
   右図の DOS 窓が表示されます。
   小窓の2行目に"・・・・間違っています"
   というメッセージが出ますが、
   実害は無いので無視して下さい。
- ・6行のコマンドを削除すればこのメッセージ は出なくなりますが、削除した状態で HASPinpを操作するとエラーになります。
   こちらのエラーは実害があります。



# (6)絶対パス(フルパス)と相対パス

- ・パス(path)とは、対象とするファイルなどに到達する道筋のことです。
- ・HASP でのパスの起点は、図 I-1の矢印④のバッチファイル(ACLD\_HEX15.bat)です。

<表 I -2 のバッチファイル>

- 6 行目 cd /d の意味: 起動した④バッチファイルのフォルダ(HASProot¥ACLD\_HEX15\_inp¥KeepOut¥BAT) を起点のディレクトリに変える DOS コマンドです。これにより HASP でのパスの起点が決まります。
- 7行目 ...¥HASP\_inp\_Exec¥ACLD\_HEX15. exe で実行モジュールを起動しています。
   矢印④から見て矢印⑤の実行モジュール(ACLD\_HEX15. exe)は、1つ上の階層のフォルダ KeepOut)で
   繋がっています。 "...¥" は1つ上の階層のフォルダの相対パスです。
- <表 I -3 の fnameHASP\_inp.txt >
  - 1行目 図I-1の矢印①の入力データファイル(sample.txt)は、矢印④から見て2つ上の階層 <u>ACLD\_HEX15\_inp</u> で繋がっています。2つ上の階層の場合の相対パスは "..¥..¥" です。 よって1行目は ..¥..¥sample\_Input.txt となります。
  - 2 行目 図 I-1 の矢印②a の年間気象データ(36300110\_SI. hasH) は <u>RefYearWD</u>のフォルダにあります。 矢印④から見て矢印②a は 3 つ上の階層 <u>HASP\_root</u>で繋がっています。 <u>よって相対パスは ...¥...¥"</u>です。
    - ・HASProot から見る矢印②a のフォルダのパスは "Data¥Weather¥Japan¥RefYearWD¥" です。 ・よって2行目は ...¥...¥...¥Data¥Weather¥Japan¥RefYearWD¥36300110\_SI.hasH となります。
  - 3 行目 図 I -1 の矢印⑥の結果を出力するフォルダは、1 行目と同じ階層 <u>ACLD\_HEX15\_inp</u>にあります。 よって、相対パスは ...¥...¥ です。
    - ・この相対パスにファイル名を合成して、結果のファイルが出力されます。
- <相対パスと絶対パス> 表 I-3 (fnameHASP\_inp.txt)の1行目を例に説明します。
- ・通常は相対パスで記述します。 ...¥...¥ACLD\_HEX15\_inp¥sample\_Input.txt
- ・これを絶対パス (フルパス) で記述する場合
- HASProot がCドライブの直下にあれば C:¥HASProot¥ACLD\_HEX15\_inp¥sample\_Input.txt です。
   ト \* キュメントの直下ならば C:¥ユーザ \* Yname¥Documents¥HASProot¥ACLD\_HEX15\_inp¥sample\_Input.txt です。
   絶対パスはHASProotを何処に置くかで変わるので、ユーザーのカスタマイズ作業が煩雑になります。
- 相対パスならば、HASProotを何処においてもパスの記述を変更する必要がありません。 ※ OS は実行するときに、相対パスを絶対パスに置き換えます。

< I 部>

### 2. HASP を手動で動かす

・(1)節で年間計算、(2)節で冷房、(3)節で暖房ピーク計算、を手動で実行する時の手順を説明します。

- (1) 年間計算の実行
- ・手順① 入力データの作成 (⇒表 I -4)
  - ・実際の入力データの作成については「解説書(2)入力編」をご覧下さい。
  - ・ここではフォルダ sample にある予め入力済のファイル sample\_Input.txt を利用します。 これをコピーして、作業域のフォルダ (HASProot¥ACLD\_HEX15\_inp) に貼り付けます。
  - ・この入力データ(表 I-4)は、<II部>の表 2-1-F(sampleA Input.txt)と内容は同じです。
  - ここでは、計算条件に関係する箇所に絞って説明します。
    - <CNTL> ・計算モード この例題では 0=シミュレーションモード とします。 (装置容量を与条件として除去熱量を求める年間計算の一般的な計算です) 出力形式
      - この例題では 1=詳細出力 とします。
      - この例題では 0=標準年気象データ とします。 ・気象データ形式
      - ・計算期間 12/15から助走し、1/1~12/31の1年間を本計算として計算します。 (助走期間を設けるのは、初期条件の影響を消すためです)
    - <HRAT> · 発熱割合 元のNewHASP/ACLDでは1行入力ですが、HASPinpでは3行入力です。 気象データのファイル名によって自動的に1行が選ばれます。 年間計算の気象データでは11カラムが空欄の1行目が選ばれます。
- ・手順②a 気象データファイルを決める
  - ・年間計算では、矢印②aの東京・平均年気象データ 36300110 SI. hasH を使うことにします。
- ・手順③ fnameHASP\_inp.txt をカスタマイズします。 (⇒表 I -3)
  - ・入力データと気象データのファイル名が決まったので、fname\_HASP\_inp.txtをカスタマイズ します。カスタマイズするのは、1行目と2行目と12行目です。

1)	¥¥sample_Input.txt	⇒ 図 1-1 の①の入力データのファイル名
2)	¥¥¥Data¥Weather¥Japan¥RefYearWD¥36300110_SI.ha	sH ⇒ 図 1-1 の②a の気象データのパスとファイル名
3)	¥¥	
4)	¥¥¥HASP¥NewHASP-ACLD¥Exec¥wndwtabl.dat	
5)	¥¥¥HASP¥NewHASP-ACLD¥Exec¥wcontab1.dat	
6)	-aACSS	
7)	-	
8)	DEBG INP=9 CK=9 WF=9 WD=9 CL=0 HE=0 OP=0 nRM=0000 MD	se=
9)	¥¥KeepOut¥CSV_inp¥*****_COMMON.csv ⇒ 手動	で動かす場合は使いません。
10)	¥¥KeepOut¥CSV_inp¥*****_SPAC.csv ⇒ 手動	で動かす場合は使いません。
11)	¥¥KeepOut¥CSV_inp¥*****_ZONE.csv ⇒ 手動	で動かす場合は使いません。
12)	<b>00</b> ⇒ HASPinpのExcelファイルと実行モジュール。	との連係情報のリセット
ו		

※12 行目の HASPinp の連係情報について

- ・手動で実行する場合でも、ACLD HEX15. exe の Excel (が起動してなくても) との連係機能は生きています。
- ・Excel とは fnameHASP\_inp.txt の 12 行目を介して連係します。
  - 12 行目が "00" の時に、ACLD\_HEX15. exe が正常に実行します。
  - ACLD\_HEX15. exe は終了時に、fnameHASP\_inp. txt の 12 行目を"99"にして返します。
- ・毎回、ACLD HEX15. exe を実行する前に、fnameHASP inp. txt の 12 行目を "00" にリセットします。

#### ・手順④⑤ バッチファイルによる熱負荷計算の起動

- 図 I -1 の矢印④の ACLD HEX15. bat をクリック すると矢印⑤の熱負荷計算 ACLD\_HEX15. exe が起動されます。
- ・実行中は右の DOS 窓が表示されます。 DATE: 12 18 は計算中の日です。
- ・下から2行目で実行が正常に完了したこと が分かります。
- ※この DOS 窓は実行終了と同時に消えます。

C:¥WINDOWS¥system32¥cmd.exe -	- C:¥HASProot_Work¥ACLD	-	$\times$
DATE: 12 18			^
DATE: 12 20			
DATE: 12 21			
DATE: 12 22 DATE: 12 23			
DATE: 12 24			
DATE: 12 25			
DATE: 12 26 DATE: 12 27			
DATE: 12 28			
DATE: 12 29			
DATE: 12 30 DATE: 12 31			
ACLD_HEX15 Ver. 20220330	Completed		
#### 終了 ####			~

#### ・手順⑥a 結果の確認

- ・熱負荷計算の結果は図 I-1の矢印⑥aのところ出力されます。
  - 例題 sample\_Input.txt の場合
    - ・MFE\_, csvとMFW\_.csv の2つの熱負荷ファイル と
  - ・気象データ weath.dat (気温と絶対湿度を抜粋したファイル) が出力されます。
- ・計算結果は、<Ⅱ部>表 2-1-L(MFW\_. csv)と同じなのでそちらを見て下さい。



< I 部>

#### (2) 冷房ピーク計算の実行

- ・順不同ですが、ここでは先に冷房ピークの計算を実行し、その後で暖房ピークの計算をすることにします。
- ・手順① 入力データの作成 (⇒表 I-5)
  - ・先の年間計算で使った入力データ sample\_Input.txt をピーク計算用に変更します。 なお、入力データは年間も冷房ピークも暖房ピークも変わらないように作ってあります。
    - 表 I-5 冷房ピーク計算の入力データ (sample\_Input.txt)
  - ・この入力データは<Ⅱ部>の表 2-2-Fc (sampleC\_Input.txt) と表 2-2-Fh (sampleH\_Input.txt) 同じです。



- ・変更するのは<CNTL>の[計算モード]と[気象データ形式]だけですが、関連箇所を説明します。
  - <CNTL> ・計算モード 1=ピーク計算 とします。

(予熱時間を与条件として、予熱終了時に室温が設定温度になるように未知 数である除去熱量を解く計算法です)

- ・出力形式 1=詳細出力 は変更なしです。
- ・気象データ形式 1=ピーク気象データ とします。
- ・計算サイクル ピーク計算の反復回数のことです。ここでは15回とします。
   (計算サイクルはピーク計算の時のみ参照されます)
- 〈HRAT〉 ・発熱割合 HASPinp では3行ありますが、気象データのファイル名によって自動的に1行が選ばれます。

冷房ピーク気象データでは11カラムが"S"の2行目が選ばれます。

- <0SCH〉 ・空調運転時間 夏期と冬期とも、8:00 に運転開始して、20:00 に運転停止です。
- <0PC0> ・設定温湿度と予熱時間 夏期は26℃50%、予熱時間は1.0時間 です。 (予熱時間はピーク計算の時のみ参照されます)

#### ・手順② 冷房ピークの気象データ

- ・ここでは矢印②cの冷房ピーク計算用の気象データ 3630C\_10\_SI. hasH を選ぶことにします。
- ・手順③ fnameHASP\_inp.txt のカスタマイズ (⇒表 I-6)
  - ・今回カスタマイズするのは、2行目の気象データのパスとファイル名のカスタマイズと 12行目の、Excel ファイルとの連係情報のリセットです。

表 I-6 冷房ピーク用にカスタマイズされた fnameHASP\_inp.txt

1)	¥¥sample_Input.txt		⇒矢印①の入力データのファイル名(変更なし)
2)	¥¥Data¥Weather¥Japan¥PeakWD¥3630C_10_	SI.	nasH ⇒矢印②cの気象データのパスとファイル名
3)	¥¥		
4)	¥¥HASP¥NewHASP-ACLD¥Exec¥wndwtab1.dat		
5)	¥¥HASP¥NewHASP-ACLD¥Exec¥wcontabl.dat		
6)	-aACSS		
7)	-		
8)	DEBG INP=9 CK=9 WF=9 WD=9 CL=0 HE=0 OP=0 nRM=	=000	0 MDse=
9)	¥¥KeepOut¥CSV_inp¥*****_COMMON.csv	$\Rightarrow$	手動で動かす場合は使いません。
10)	¥¥KeepOut¥CSV_inp¥******_SPAC.csv	$\Rightarrow$	手動で動かす場合は使いません。
11)	¥¥KeepOut¥CSV_inp¥*****_ZONE.csv	$\Rightarrow$	手動で動かす場合は使いません。
12)	<b>00</b> ⇒ HASPinpのExcelファイルと実行モジョ		との連係情報のリセット

#### ・手順④⑤ バッチファイルによる熱負荷計算の起動

- 図 I -1 の矢印④の ACLD\_HEX15. bat をクリックすると矢印⑤の熱負荷計算 ACLD\_HEX15. exe が 起動されます。
- ・実行中は右の DOS 窓が表示されます。

```
DATE: 8/1 は計算日で、 iPEAKcycle /n = 15/15 は反復回数の表示です。
```

・下から2行目の ACLD\_HEX15 Completed で実行が正常に完了したことが分かります。
 ### 終了 ### はバッチの終了表示です。

※DOS 窓は実行終了と同時に消えます。

+++ ピーク計算 N	RM= 1	iWDtype= 1	Date= 8/ 1	iPEAKcycle / n = 12/15
+++ ピーク計算 N	RM= 1	iWDtype= 1	Date= 8/ 1	iPEAKcycle / n = 13/15
+++ ピーク計算 N	RM= 1	iWDtype= 1	Date= 8/ 1	iPEAKcycle / n = 14/15
+++ ピーク計算 N	RM= 1	iWDtype= 1	Date= 8/ 1	iPEAKcycle / n = 15/15
+++ ピーク計算 N	RM= 2	iWDtype= 1	Date= 8/ 1	iPEAKcvcle / n = 1/15
+++ ピーク計算 N	RM= 2	iWDtype= 1	Date= 8/ 1	iPEAKcycle / n = 2/15
+++ ピーク計算 N	RM= 2	iWDtype= 1	Date= 8/ 1	iPEAKcycle / n = 3/15
+++ ピーク計算 N	RM= 2	iWDtype= 1	Date= 8/ 1	iPEAKcycle / n = 4/15
+++ ピーク計算 N	RM= 2	iWDtype= 1	Date= 8/ 1	iPEAKcycle / n = 5/15
+++ ピーク計算 N	RM= 2	iWDtype= 1	Date= 8/ 1	iPEAKcycle / n = 6/15
+++ ピーク計算 N	RM= 2	iWDtype= 1	Date= 8/ 1	iPEAKcycle / n = 7/15
+++ ピーク計算 N	RM = 2	iWDtype= 1	Date= 8/ 1	iPEAKcycle / n = 8/15
+++ ピーク計算 N	RM= 2	iWDtype= 1	Date= 8/ 1	iPEAKcycle / n = 9/15
+++ ピーク計算 N	RM= 2	WDtype= 1	Date= 8/ 1	iPEAKcycle / n = 10/15
+++ ピーク計算 N	RM = 2	WDtype= 1	Date = 8/1	iPEAKcycle / n = 11/15
+++ ピーク計算 N	RM= 2	WDtype= 1	Date= 8/ 1	iPEAKcycle / n = 12/15
+++ ピーク計算 N	RM= 2	WDtype= 1	Date = 8/1	iPEAKcycle / n = 13/15
+++ ピーク計算 N	RM= 2	WDtype= 1	Date = 8/1	iPEAKcycle / n = 14/15
+++ ピーク計算 N	RM = 2	iWDtype= 1	Date = 8/1	iPEAKcycle / n = 15/15
ACLD HEX15 Ver 2	0220330	Completed	0,	
#### 終了 ####	0220000	oomp i o cou		
				~

■ 選択C:¥WINDOWS¥system32¥cmd.exe - C:¥HASProot\_Work¥ACLD\_HEX15\_Inp¥KeepOut¥BAT¥A... ー

#### ・手順⑥ 結果の確認

- ・熱負荷計算の結果は図 I の矢印⑥c のところ出力されます。
  - 例題 sample\_Input.txt の場合
    - ・MFE\_\_C, csv と MFW\_\_C. csv の2つの熱負荷ファイル と
    - ・気象データ weath\_C. dat (気温と絶対湿度を抜粋したファイル)が出力されます。
- ・計算結果は、<Ⅱ部>表 2-2-Lc(MFW\_C.csv)と全く同じなのでそちらを見て下さい。

<補足> ピーク熱負荷計算で出力されるファイル名の記号

ACLD\_HEX15. exe では、出力される負荷結果や気象データのファイル名の末尾に"C"または"H"の記号が自動的に付けられます。この記号は気象データのファイル名から取ったものです。 こうすることで、年間と冷房ピークと暖房ピークの結果ファイルが共存することができます。

※ 旧 HASP のピーク気象データのファイル名は、例えば

東京の冷房ピーク気象データ 16\_S\_05. has、16\_S\_10. has、16\_S\_20. has
 東京の暖房ピーク気象データ 16\_W\_05. has、16\_W\_10. has、16\_W\_20. has
 拡張子が has の気象データのファイル名の場合は "S" または "W" になっています。
 これらを使ってピーク熱負荷計算したときに出力されるファイル名は、

- MFW\_\_S, csv、 MFE\_\_S. csv、 weath\_S. dat
- MFW\_\_W, csv、 MFE\_\_W. csv、 weath\_W. dat

```
になります。
```

※ 新しい WEADAC のピーク気象データの場合も "S" または "W" になります。

< I 部>

#### (3) 暖房ピーク計算の実行

- ・先の冷房ピーク計算に続いて暖房ピークの計算をします。
- ・手順① 入力データの作成 (⇒表 I-7)
  - ・入力データは冷房ピークと暖房ピークで変わりません。 先の(2)で使った入力データ sample\_Input.txt をピーク計算に流用します。



- ・ピーク計算では、<CNTL>の[計算モード]と[気象データ形式]に注意します。
  - ・計算モード 1=ピーク計算 とします。
    - (予熱時間を与条件として、予熱終了時に室温が設定温度になるように未知 数である除去熱量を解く計算法です)
  - ・出力形式 1=詳細出力 は変更なしです。
  - 気象データ形式 1=ピーク気象データ とします。
  - ・計算サイクル ピーク計算の反復回数のことです。ここでは 15 回とします。 (シミュレーションモードの時は参照されません)
  - <HRAT> ・発熱割合 HASPinp では3行ありますが、気象データのファイル名によって自動的に1行が選ばれます。
    暖房ピーク気象データでは11カラムが"W"の3行目が選ばれます。
  - <0SCH> ・空調運転時間 夏期と冬期とも、8:00 に運転開始して、20:00 に運転停止です。
  - <0PC0> ・設定温湿度と予熱時間 冬期は22℃40%、予熱時間は2.0時間 です。
- ・手順② ピークの気象データ

<CNTL>

- ・ここでは矢印②hの暖房ピーク計算用の気象データ 3630C\_12\_SI. hasH を選ぶことにします。
- ・手順③ fnameHASP\_inp.txt のカスタマイズ (⇒表 I-8)
  - ・今回カスタマイズするのは、2行目の気象データのファイル名と 12行目の、Excelファイルとの連係情報のリセットです。

表 I-8 暖房ピーク用にカスタマイズされた fnameHASP\_inp.txt

1)	¥¥sample_Input.txt	⇒矢印①の入力データのファイル名(変更なし)
2)	¥¥¥Data¥Weather¥Japan¥PeakWD¥3630H_12_SI.hasH	⇒矢印②暖房ピークの気象データのパスとファイル名
3)	¥¥	
4)	¥¥¥HASP¥NewHASP-ACLD¥Exec¥wndwtab1.dat	
5)	¥¥¥HASP¥NewHASP-ACLD¥Exec¥wcontabl.dat	
6)	-aACSS	
7)	-	
8)	DEBG INP=9 CK=9 WF=9 WD=9 CL=0 HE=0 OP=0 nRM=0000 MD	se=
9)	¥¥KeepOut¥CSV_inp¥*****_COMMON.csv :手動で	動かす場合は参照しません。
10)	¥¥KeepOut¥CSV_inp¥*****_SPAC.csv :手動で	動かす場合は参照しません。
11)	¥¥KeepOut¥CSV_inp¥*****_ZONE.csv :手動で	動かす場合は参照しません。
12)	<b>00</b> ⇒HASPinpのExcelファイルと実行モジュ	ールとの連係情報のリセット
	※表 I -2-3b の":"以下は説明文です。なお、DOS コマン	ドでは行の途中からコメントにはできません。

#### ・手順④⑤ バッチファイルによる熱負荷計算の起動

- ・図 I −1 の矢印⑤ACLD\_HEX15. bat をクリックすると矢印⑤熱負荷計算 ACLD\_HEX15. exe が起動さ れます。
- ・実行中は右の DOS 窓が表示されます。

```
DATE: 1/30 は計算日で、 iPEAKcycle /n = 15/ 15 は反復回数の表示です。
```

・下から2行目の ACLD\_HEX15 Completed で実行が正常に完了したことが分かります。
 ### 終了 ### はバッチの終了表示です。

※DOS 窓は実行終了と同時に消えます。

C:#WINDOWS#system32#cmd.exe	- C:#HASProot_Work	#ACLD_HEX15_Inp#Ke	epOut#BAT#ACLD			~
+++ ピーク計算 NRM= 1	iWDtype= 1	Date= 1/30	iPEAKcycle /	n =	12/15	~
+++ピーク計算 NRM= 1	iWDtype= 1	Date= 1/30	iPEAKcycle /	n =	13/ 15	
+++ ピーク計算 NRM= 1	iWDtype= 1	Date= 1/30	iPEAKcycle /	n =	14/ 15	
+++ ピーク計算 NRM= 1	iWDtype= 1	Date= 1/30	iPEAKcycle /	n =	15/ 15	
+++ ピーク計算 NRM= 2	iWDtype= 1	Date= 1/30	iPEAKcycle /	n =	1/ 15	
+++ ピーク計算 NRM= 2	iWDtype= 1	Date= 1/30	iPEAKcycle /	n =	2/ 15	
+++ ピーク計算 NRM= 2	iWDtype= 1	Date= 1/30	iPEAKcycle /	n =	3/ 15	
+++ ピーク計算 NRM= 2	iWDtype= 1	Date= 1/30	iPEAKcycle /	n =	4/ 15	
+++ ピーク計算 NRM= 2	iWDtype= 1	Date= 1/30	iPEAKcycle /	n =	5/ 15	
+++ ピーク計算 NRM= 2	iWDtype= 1	Date= 1/30	iPEAKcycle /	n =	6/ 15	
+++ ピーク計算 NRM= 2	iWDtype= 1	Date= 1/30	iPEAKcycle /	<b>n</b> =	7/ 15	
+++ ピーク計算 NRM= 2	iWDtype= 1	Date= 1/30	iPEAKcycle /	n =	8/15	
+++ ピーク計算 NRM= 2	iWDtype= 1	Date= 1/30	iPEAKcycle /	n =	9/ 15	
+++ ピーク計算 NRM= 2	iWDtype= 1	Date= 1/30	iPEAKcycle /	n =	10/ 15	
+++ ピーク計算 NRM= 2	iWDtype= 1	Date= 1/30	iPEAKcycle /	n =	11/ 15	
+++ ピーク計算 NRM= 2	iWDtype= 1	Date= 1/30	iPEAKcycle /	<b>n</b> =	12/ 15	
+++ ピーク計算 NRM= 2	iWDtype= 1	Date= 1/30	iPEAKcycle /	n =	13/ 15	
+++ ピーク計算 NRM= 2	iWDtype= 1	Date= 1/30	iPEAKcycle /	n =	14/ 15	
+++ ピーク計算 NRM= 2	iWDtype= 1	Date= 1/30	iPEAKcycle /	<b>n</b> =	15/ 15	
ACLD_HEX15 Ver. 20220330	Completed					
#### 終了 ####						$\sim$

#### ・手順⑥ 結果の確認

- ・熱負荷計算の結果は図 I-1の矢印⑥hのところ出力されます。
  - 例題 sample\_Input.txt の場合
    - ・MFW\_H, csv と MFE\_H. csv の2つの熱負荷ファイル と

```
・気象データ weath H. dat (気温と絶対湿度を抜粋したファイル)が出力されます。
```

・計算結果は、<Ⅱ部>表 2-2-Lh (MFW\_H.csv) と全く同じなのでそちらを見て下さい。

<補足> ピーク熱負荷計算で出力されるファイル名の記号

ACLD\_HEX15. exe では、出力される負荷結果や気象データのファイル名の末尾に"C"または"H"の記号が自動的に付けられます。この記号は気象データのファイル名から取ったものです。 こうすることで、年間と冷房ピークと暖房ピークの結果ファイルが共存することができます。

※ 旧 HASP のピーク気象データのファイル名は、例えば

東京の冷房ピーク気象データ 16\_S\_05. has、16\_S\_10. has、16\_S\_20. has
 東京の暖房ピーク気象データ 16\_W\_05. has、16\_W\_10. has、16\_W\_20. has
 拡張子が has の気象データのファイル名の中は "S" または "W" になっています。
 これらを使ってピーク熱負荷計算したときに出力されるファイル名は、
 • MFW\_S, csv、MFE\_S. csv、weath\_S. dat
 • MFW\_W, csv、MFE\_W. csv、weath\_W. dat
 になります。

※ 新しい WEADAC のピーク気象データの場合も "S" または "W" になります。

< I 部>

## 3. 入力データにエラーがあった場合

- ・入力データにエラーが見つかると、下図の DOS 窓に ERROR count の表示が出て実行は停止します。
- ・DOS 窓は実行停止と同時に消えるので、エラーがあったことが分からなくなりますが、
- DOS 窓の DATE: の表示が流れないことから、熱負荷計算の処理にエラーがあったことが分かります。 ■ C\*WINDOWS¥system32¥cmd.exe

	Program Version = ACLD_HEX15
	11 ,00 ,ACLD_HEX15 Ver.20220330 Started
	sub READ Fname LINE, QWK= 1¥¥sample_Input.txt
	sub_READ_FnameLINE,_QWK=2¥¥¥Data¥Weather¥Japan¥RefYearWD¥36300110_SI.hasH
	sub READ Fname LINE, QWK= 3¥¥
	sub READ FnameLINE, QWK= 4¥¥¥HASP¥NewHASP-ACLD¥Exec¥wndwtabl.dat
	sub READ Fname _LINE, QWK= 5¥¥HASP¥NewHASP-ACLD¥Exec¥wcontabl.dat
	sub READ Fname LINE, QWK= 6 -aACSS
	sub READ Fname LINE, QWK= 7 -
	sub READ FnameINE, QWK= 8 DEBG INP=0 CK=0 WF=0 WD=0 CL=0 HE=0 0P=0 nRM=0000 MDse=
	00000000 JHM=0000000000000
	open INP = 1¥¥sample_Input.txt
	open WD= 11¥¥¥Data¥Weather¥Japan¥RefYearWD¥36300110_SI.hasH
/	
	ERROR conut = 3 in INPUI data
	ACLD_HEATS Ver. 20220330 Cancered
1	

- ・なお、図I-1の矢印⑦(ACLD\_HEX15\_debug.txt)にエコーバックの記録が保存されています。 これを開くとエラーの原因が分かります。(⇒表I-9)
  - 下表 I-9 では

56 行目の外壁 "OWAL OWW SS " の下に3行の \*\*\*\*\*\* ERROR \*\*\*\*\*\* 表示があります。 •57 行目 ERROR 20 は、"外壁の面積が負かゼロ" というエラーです。 •58 行目 ERROR 5 は、"未定義の壁体 OWW を引用" というエラーです。 •59 行目 ERROR 5 は、"未定義の方位 SS を引用"というエラーです。

入力データに戻って、エラー箇所を修正します。

表 I-9 ACLD\_HEX15\_debug.txtの例

	10		20	. 3	0		40			50			60		. 7	0		80		9	0
22	ACLD HEX15	i st	MPIF	(n.H)	1=2)																
22	RUII			30.3	>	10 2	u n		50	2	00										
24	ONTL	0	1	00.2	10	16 2	4.0	1	50	10	01	15	1	1		2		ALIV	т		
24		70 7	1		12	10 70		1		12	51	10	1	1		2		AUV	1		
25	HKAT	10 1	0 70 70	J 70 70	1.70	70 70															
26	HRAT	S10010	0100100	J10010(	11001	00100															
27	HRAT	₩ 20 2	20 20 20	0 20 20	20	20 20	1														
28	EXPS N	9	30 180	)																	
29	EXPS S	ç	n ne	ì																	
20	EXPS W	č	iñ ai	ň																	
21	EVDO	č	0 _0(	ĥ																	
00		c	0 -30	5																	
32	EXPS H	~~ •		ر ۱		FA 07		~~	~												
33	WCUN UW	32 1	2 92	82 25	221	50 27	20	36	8												
34	WCON IW	27.2	20 22120	) 27 20	)																
35	WCON FL	41	3 22150	) 92	32	9 75	i 12														
36	WCON CL	75 1	2 32 3	9 92	221	50 41	- 3														
37	WCON BECO	27 2	20 22																		
38	WCON OWC	87 2	5 22150	1 27 20	36	8															
žğ	SEAS	2	2 2 3	2 2 1	ĩ	Ť 1	3	3	2												
40		1	1 12 21	1			0	Ŷ	2												
40		1	1 1 1	210	0	11 0	00	0	01		20	F	0	F	1 5	F	7	17			
41	SDAT				2 10	11 4	23	11	21	4	29	0	3	0	4 0	0	10	17			
42	+	81	1 9 18	5 9 ZC	S IN	9 11	3	11	Ζ3						1	3	ΤZ	31			
43	WSCH WSCH				2 3	3 3						~ ~									
44	DSCH OCU	A 80	0 90100	J120100	)130	20140	100	170	1001	80	502	00	_0_								
45	DSCH LIG	A 80	0 90100	0120100	)130	40140	100	180.	1001	90	502	200	502	10	0						
46	DSCH HEA	A 80	0 90100	0120100	)130	20140	100	170	1001	90	02	200									
47	OSCH OSC	8020	)0																		
48	OSCH OSH	8020	)0																		
49	OPCO OPC1	60		OSC 26	3 26	50 50	100	DSH.	22	22	40	40	200	SC 2	4 24	50	501	10 4.	0		
50	OPCO OPC2	60		OSC 26	3 26	50 50	10	1SH	22	22	40	40	200	SC 2	4 24	50	501	0 4.	Ô		
- Š1	0,000 0,02			000 20									200			•••		· · ·	·		
- Ĕ2	SPAC MEM M	ISCH	0.0	3.6	2.6			202	50												
52		2 1	2.2	0.0	2.0			12 0	.00 ac												
00		) I J 1	2 2				,	12.0	30												
54	WINDW U W	/ I	ZZ					<u>20.</u>	JZ												
55	WNUW U N		22					12.8	96												
56	OWAL OWW S	S						-19.	.02												
57	*****	ERROR	20 ***	<b>*</b> **																	
58	*****	ERROR	5 ***×	<b>*</b> **																	
59	*****	ERROR	5 ***	***																	
60	OWAL OW W	1					:	38.0	04												
61	OWAL OW N	1						19.0	02												
62	OWAL OWC S	3						12.3	3												
63	OWAL OWC W						-	24.6	3												
64	OWAL OWC N							12	ž												
04		· .							´												

# <II部> HASPinp による HASP の実行

# (ACLD\_HEX15\_inp を例に)

1. HASPinpとは

- 2. HASPinp によるケーススタディ
  - 2-1 ケース1:年間計算・詳細出力
  - 2-2 ケース2:ピーク計算・詳細出力
  - 2-3 ケース3:年間計算・簡易出力
  - 2-4 ケース4:ピーク計算・簡易出力
- 3. HASPinp での未入力エラーの見つけ方

<Ⅱ部>

# 1. HASPinpとは

# (1) ユーザーインターフェースとしての HASPinp

- ・元々の HASP 系のプログラムはユーザーインターフェース(IOU)を持っていません。
- ・本書「解説書(1)実行編の〈I部〉」や、「解説書(0)導入編」でも説明しましたが、
   ①HASPの入力データはカラム1つ間違えるとエラー
   ②入力データの中で「定義」と「引用」の関係で間違いが起きやすい
   ③DOS コマンドでの気象データファイルのパスなどのカスタマイズは慣れても面倒などの問題があります。
- ・これらの問題を支援するのが HASPinp です。
- ・HASPinp を使えば、
  - ①入力データのミスはまず生じません。

②入力データの中で「定義」と「引用」の関係も HASPinp の指示に従えば間違いは起きません ③DOS コマンドのカスタマイズは HASPinp が自動的にします。

※HASPinp は JABMEE (当協会)の監修を得て SERL (システック環境研究所)が有償頒布するソフトです。

#### (2) 2 つの HASP inp

- ・HASPinp には ALCD\_HEX15\_inp と NewHASP\_2\_inp の 2 つがあります。
- ・本書は ACLD\_HEX15\_inp で説明しますが、NewHASP\_2\_inp も内容はほとんど同じです。
   両者に共通する内容は、特に区別しないで HASPinp と表記します。
   両者で異なるところだけ、ACLD\_HEX15\_inp と記しますが、ごく一部です。

#### (3) HASPinp の実行モジュールと Excel ファイル (⇒図 II-1)

・HASPinp は、ユーザーインターフェースを含む HASPinp のアプリケーション一式を言います。

- ① ACLD\_HEX15\_InputSheet.xlsm (入力データの作成や計算の起動をする Excel ファイル)
- ② HASP\_inp. exe
- ③ ACLD\_HEX15. exe
- ④ HASP\_zone.exe

- (入力フォーマットに変換する実行モジュール) (非定常熱負荷計算の実行モジュール)
- (ゾーン集計の実行モジュール)
- ⑤ 4 つの GRAPH. x1sm (熱負荷計算の結果をグラフ化する Excel ファイル)
- これらが連係して一連の熱負荷計算が操作(入力⇒計算⇒グラフ)できるようになっています。

<参考> HASPinpの機能

①ACLD\_HEX15\_InputSheet.xlsm (NewHASP\_2 では NewHASP\_2\_InoutAheet.xlsm)

- 1)入力支援機能: ほぼミス無く入力データを作成することができます。
- n) fnameHASP\_inp. txt のパスやファイル名を自動的にカスタマイズします。
- ハ②③④の実行モジュールはExcel の画面からボタンをクリックするだけで起動できます。

②HASP\_inp. exe (ACLD\_HEX15 と NewHASP\_2 に共通の実行モジュール)

①の入力情報を HASP の所定のフォーマットに編集して、入力データファイルが作成されます。
 ③ACLD\_HEX15. exe (NewHASP\_2 では NewHASP\_2. exe)

非定常熱負荷計算の本体です。

- 熱負荷計算の結果は csv ファイルで出力します。
- ④HASP\_zone. exe (ACLD\_HEX15 と NewHASP\_2 に共通の実行モジュール)
  - 元々の HASP には無い機能です。③の出力ファイルから次の作業をします。
    - ・ゾーン集計 4 段階での集計機能 (SPAC → ZONE → Mzone → Tzone)
    - ・時間積算 時分データ → 日積算 → 月積算 → 年積算
    - ・ピーク負荷のソート 時分ピーク負荷、日積算ピーク負荷

結果として、頭に SPAC\_、ZONE\_、Mzone\_、Tzone\_が付いた新たな csv ファイルが出力されます。 ⑤グラフの Excel (ACLD\_HEX15 と NewHASP\_2 に共通)

4種類のExcel(年間詳細出力、年間簡易出力、ピーク詳細出力、ピーク簡易出力)があります。 ④の出力ファイルには、グラフ用の情報が追加されており、これによってグラフを描きます。

# (4) HASPinp のフォルダとファイルの構成



<Ⅱ部>

#### (5) HASP inp の操作と動作の流れ

- ・前図Ⅱ-1と次図Ⅱ-2を使って HASPinp の処理の流れを説明します。(○の番号は両図に共通です)
- ・ユーザーが操作するのは図Ⅱ-2の実線の枠の範囲です。他は HASPinp が自動的に処理します。
  - 操作① ①OriginalFiles のフォルダから①と⑤の Excel ファイルを作業域にコピーします
  - 操作① ①ACLD\_HEX15\_InputSheet.xlsmを立ち上げ ⇒①イロハ<COMMON><SPAC><ZONE>を入力します
  - 操作② ①^<ZONE>の画面で②「ファイル変換」選ぶと ⇒ ②イロ^ COMMON.csv, SPAC.csv, ZONE.csv が 出力され ⇒ ②= fnameHASP\_inp.txt がカスタマイズされ ⇒ ③ # HASP\_inp.bat によって ⇒ ②^ HASP\_inp.exe が起動されます。⇒ ②^は②1の COMMON と SPAC の csv ファイルを 読み込んで編集して ⇒ ②ト入力データファイル を出力します
  - 操作③ 続いて① $\wedge$ <ZONE>の画面で③「熱負荷計算」選ぶと、③f fnameHASP\_inp.txt がカスタマイズされ ⇒ ③n ACLD\_HEX15.bat によって ⇒ ③ $^{n}$  ACLD\_HEX15.exe が起動されます。 ③ $\wedge$ は② $\wedge$ 入力データと③=気象データを読み込んで熱負荷計算をして ⇒ ③<sup>k</sup>熱負荷ファイルと③ $^{n}$ 気象データファイルを出力します。
  - 操作④ 続いて① $\wedge$ <ZONE>の画面で④「ゾーン集計」を選ぶと、④ $\ell$  fnameHASP\_inp.txt がカスタマ イズされ、④ $^{\circ}$  HASP\_zone.bat によって ⇒ ④ $^{\wedge}$  HASP\_zone.exe が起動されます。④ $^{\wedge}$ は、 ① $^{\wedge}$  ZONE.csv と③<sup>i</sup>\*熱負荷ファイルを読み込み ⇒ ④ $^{:}$ ゾーン集計ファイルを出力します。
  - 操作⑤ 最後に、Graphの⑤ィ、⑤□、⑤□、⑤□で該当するものを起動してグラフを描きます。



#### 図Ⅱ-2 ACLD\_HEX15\_inpの処理の流れ

# 2. HASPinp によるケーススタディ

# (1) 建物モデルと計算条件

 ・本書で計算するモデル建物(事務所ビル)を図Ⅱ-3に示します。 これは日本建築学会の「標準モデル」(1985年)です。 この中で基準階の西側の事務室(MFW)と東側の事務室(WFE)を対象に熱負荷計算することにします。 場所は東京とします。



図Ⅱ-3 建物モデル



10mm

(芯材は厚さ記しない)

17

# (2) HASPinp を立ち上げる

- ・最初に、OriginalFilesのフォルダから次の5つのExcelファイルを作業域にコピーするのですが、 ここでは既に入力済のファイルをSampleのフォルダからコピーして利用することにします。
   ・Sampleのフォルダから作業域にコピーした ACLD\_HEX15\_InputSheet.xlsm を立ち上げます。
- ・下図 II-4 は、ACLD\_HEX15\_InputSheet.xlsm の<COMMON>の画面です。
- ・4 行目の(\_\_\_\_\_)はバージョンです。(ACLD\_HEX15\_InputSheet ver. 20220707) 本書は、2022 年 3 月 30 日版の HASPinp で試算し、執筆しています。
- ・画面中の小窓は、有効期限 21001231 などの表示で、OK をクリックすると消えます。
- ・HASPinpのExcelファイルにはマクロが組み込まれています。 マクロを有効化していれば、<O部>(1)のような表示は出ません。

A1 $\mathbf{r}$ : $\mathbf{x}$ of $\mathbf{f}$ 31	
	•
ABCD E F G H I J K L M N 0 P 0 R S T U V W X Y Z AA AB AC AD AE AF	A AH AI AJ AK AL AM AN AO AP AQ AR AS AT AU AV AW AX AY AZ
2 <(始める前に> カラムAB.CDには制御コードが入っています。壊さないようにしてください。 の セルをクリックすると しんな サリークする トロビー ヴィスト コピー ヴァキオ コピー ヴァキオ	
4 ↓ nos の左のセルに「+」がある場合、ダブルクリックすると、削除ができます。 ACLD_HEX15_InputSheet_ver.20220/0/ (Exr 5 0):空白行動	sel 2016)
6 <u>Vis78</u> 7 av Aufoldervik Sample (Klama)	9a7a
	複数指定不可。1 データのみ
	7
12 * 0 BUIL 302 102 102 102 102 102 102 102 102 102 1	御御料室不可 ノデータのみ
14 上級数行指定不可 hasH = * EA,RY 0110 10kJ LNR 4 3630 Japan Tokyo 35413N 139455E T= 900 H= 6 P VH= 250 一 一 一 一 一 一 一 一 十首和四 一 一 一 十首和四 一 一 十百百日 一 一 一 十百日日 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	
16 計算制御 計算出力 要量 SI データ 助走開始 本計算開始 計算算7 計算計算用 準備 n.M. FEAK. 17 チャド 形式 チャド チャド 形式 24 日 日 24 日	<u>王</u> (23.17) (47)
18 * [DNTL] 02支目詳細出力 0.標準年気痛 12 15 1 1 Microsoft Excel	× 「TL] 実用定不可、1データのみ
20 - 「故教行指定不可」 - 密金モードとSIモードは入力不要(inoでは自動入力、hisHで 21 - UGH(昭明) CCLP(人) HEAT(機器類)	
22 <b>発熱約合 夏期 冬期 中間期 夏期 冬期 中間期 夏期 冬期 中間期</b> 23  [96] [96] [96] [96] [96] [96] [96] [96]	H81/2
24 * HRAT 70 70 70 70 70 70 70 70 70 70 70 70 70	
28 * HRAT W 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40	(AT] 数指定不可。1 データのみ
31 train and a contract of the	IPS I
33 * 0 + EXPS S 90 0 90 90 90 90 90 90 90 90 90 90 90 9	PS *EXPS
35 * 0 + EXPS E 90 -90 90 90 90 90 90 90 90 90 90 90 90 90 9	* EXPS
37 半角4文字以内 整教 整教 38 <mark>大文字の英数字 </mark> レ水平面=0、垂直面=30、ビロティ=180	
39 40 参考 <mark>材料=1 材料=2 &lt;注&gt;</mark> 室側の材料がら入力します。 < <u>く注</u> > 床と天井は別部材です。 <mark>く注</mark> > 材番が空白のセル以降は無視されます。	
41	// A A D A A A A A A A A A A A A A A A A
Image: state with a	# WCON
10 1 0 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	* WCON
N         P         WOUN         DECO         27:-E1         3 27# SHIP (2:50)         100         91:-D1         3           48         * 0         * WOON         DECO         27:-E1         2 22# SHIP (2:50)         100         91:-D1         3	* WOON * WOON
19 ° 0 ▼ 19900191 (1990) 19 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12	
	<b>産的</b>
54 1月 2月 3月 4月 5月 5月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 55 * SEAS 2:冬期2:冬期2:冬期3:中間3:中間1:東期1:東期1:東期1:東期1:東期1:東期1:東期1:東期1:東	*(SEAS)
55	複数指定不可。1 データのみ
58 補知目 < オブジョン 日本 2003 + ためを小で準または新市を遅べは、登録時の特別日を一括設定できます。 20 + 2月の日数	113012
$\bigcirc \bigcirc $	

図Ⅱ-4 HASPinpの初期画面

- ・図Ⅱ-4は<COMMON>の入力画面(sheet)ですが、この他にユーザーが操作するのは<SPAC>と<ZONE> の入力画面(sheet)です。また、<ZONE>の画面では実行モジュールの起動操作もします。 この他の sheet には HASPinp の色々な仕掛けのための sheet であり、ユーザーは操作しません。
- ・入力画面のセルが色分けされていますが、ユーザーが操作できるのは以下のセルです。
  - 「白色」 薄黄色 薄水色 の太枠で囲まれたセルはデータを入力するセルです。
  - ・ 薄鼠色 のセルはユーザーは操作しませんが、HASPinp が自動的にデータを入力します。
  - ・ 陳瓦色 のセルをクリックすると、簡単な入力ガイドが表示されます。
  - ・ 緑色 「薄緑色」のセルはデータ行の追加や削除の操作をするセルです。

<sheet とセルの保護>

- ・各 sheet には HASPinp の色々な仕掛けが仕組まれています。
- この仕掛けが壊れると HASPinp が正しく動作しなくなるので、各 sheet には保護が掛かっています。
- ・入力画面(sheet)でも、入力できるセル以外のセルには保護が掛かっています。

<入力セルの入力規則>

・入力セルには、整数・実数・文字の区別や、入力できる数値の範囲、文字列の長さ、リスト入力な どの Excel の入力規則が組み込まれています。この機能により入力ミスはほぼ生じません。

# (3) ユーザーが操作する HASP inp の3つの画面

- ・図Ⅱ-5cの<COMMON>、図Ⅱ-5sの<SPAC>、図Ⅱ-5zの<ZONE>がユーザーが操作できる3つの画面です。
- ・3つの画面は既に入力済です。ほとんどが(4)節で説明する4つのケースに共通です。
- 各ケースで変更するのは <CNTL>の計算条件 と <BUIL>の都市・気象データ だけです。

		図II-5c <common>の入力画面</common>	
1	B C D E F G * 4 1 2 3	H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z AA AB AC AD AE AF A 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27	AH AJ AJ
2 * 1	<始める前に> : が有効行	カラムAB,ODには制御コートか入っています。壊さないようにしてくたさい。 ゆうの セルをクリックすると コピーガン かかっています。 スカガイド が表示されます。 次へ スカガイド が表示されます。 ターマング	
4 J 5	nos 0:空白行数	00左のセルト、+」かめる場合、タブルグリッジョると、削強かできます。 AGLD_HEX15_InputSheet_ver.20220707 (Excel 20	J16)
6 7 **	ショフ名 AOLDJHEX15 S	SAMPLE (nJHM=2) *	737名
8	└複数行指定不	可。1 データのみ 「 絵度・経度は入力不要(npでは自動入力、hasHではファイルから直接入力) 「 時差は入力不要(npでは自動入力、hasHではファイルから直接入力)	复数指定不可。1 データのみ
10	建物概要	緯度         経度         軒高         地物反射率         基準温度         基準温度         限の日射物得         時差         【ONTL]テー気形式→部市名→ファイル名の順         3           [度分]         [庶分]         [m]         [%]         [℃]         [W/m]         UTC ± [h]         都市名         気象テータのファイル名         3	<b>圭物概要</b>
12 * 1		30.2 10 24.0 50 200   東京 36300110,5ihasH 南後は一値 西段は一値 のかいけ→ 10 24.0 50 200 9 1~4/4 1~9/9 3	事数指定不可。1 データのみ
14	「複数行指定不	hasH = * EARY 0110 10kJ LNR 4 3630 Japan Tokyo 35413N 139455E T= 9,00 H= 6 P VH= 250	
16	計算制御		+算制御
18 *	CNTL		NTL 歴史的な A データの N
19 20	L 也 也 御 数 行 指 定 不 一	→ 0 0 0 0 0 0 12 15 1 1 12 31 15 1 1 Coensult Incoensult AnAT 5 可 上雲量モードとは入力不要(no trida動入力、hasHではファイルから直接入力)	夏敷指進不可。「テータのみ
22	発熱割合	고려(1999) 000F(시) FECT(1999) 6명 우명 수명 수명 수명 수명 수명 가 나 다 나 다 나 다 나 다 나 다 나 다 나 다 나 다 나 다 나	能熱割合
24 *	HRAT	170 170 170 170 170 170 170 170 170 4 標準気象データ等の場合に読み込まれる *F	IRAT
26 *	HRAT	× 100 100 100 100 100 100 100 100 100 000 000 年数象子 500度新ビーク(3)の時に読み込まれる ₩ 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 4数象子 500度新ビーク(W)の時に読み込まれる +	IRAT
27 28	- 3行のうち気象	100 100 100 100 100 100 100 100 000 ← demont モデータに適合する1行が自動判定されて、入力データが作られます。	夏敷指定个可。1テータのみ
29 30	外表面 EXPS	- 横振一	面表小
31 32 * C	章名 D EXPS N	[*]         [*]         [m]         2h (m]         Y1 (m]         Y2 (m]         Y3 (m]         Zv (m]         X3 (m]         X3 (m]           90         180                  *[E]          *[E] <td>XPS</td>	XPS
33 * 0 34 * 0	D + EXPS S D + EXPS W	90 0 + E	XPS XPS
35 * 0 36 * 0	D + EXPS E		XPS XPS
37	半角4文字以 大文字の英	以内 整教 整教 数字 「小平雨=0 毎古雨=30 ピローティ=180	
39		参考 材料→材料→ < <注>> ●(1) = 1 → 2 → 2 → 2 → 2 → 2 → 2 → 2 → 2 → 2 →	
41 42	从表面 WCON	第1層 第2層 第3層 第4層 第5層 第5層 第5層 第5層 第5層 第9層 第10層 第11層 材番 照本 材番 照本	<b>水</b> 表面
43 44 * 0	壁体構造 命名 O WCON OW	「mm」 「mm」 「mm」 「mm」 「mm」 「mm」 「mm」 「mm	差体構造 VCON
45 * 0	D WOON IW	27:モル20 22:普測120 27:モル20 41:00	WOON
47 * 0	0 + WCON CL	- 11日本 ○ 22日本 130 03(非名前中 02日本 04) ○ 73日本 12 75日本 12 32日本 9 32:非常間中 22:普次 150 41:合木 3 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●	WOON
48 * 0	D + WOON BECO D + WOON OWC	27:七川 20 22:普通目2975年 87:本別 25 22:普通150 27:七川 20 36:交4 8 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	WCON
50 51	半角4文字以 大文字の英	있어 数字	
52 53	季節		季節
54 55 *	SEAS	1月 2月 3月 4月 5月 5月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 2冬期2冬期3:中間3:中間13.明113.期113期113期113月3:中間3:中間3:や間3:中間3:中間3:中間3:中間3:中間3:中間3:中間3:中間3:中間3:中	EAS
56 57	複数行指定不可	2 2 2 3 3 1 1 1 1 3 3 2 ← default	复数指定不可。1 データのみ
58 59	<mark>特別日</mark> < オブショ	3ジ> 日本 2023 ←左のセルで年または都市を選べば、登録資の特別日を一括設定できます。 28 ←2月の日数 1 月 日 月 日 月 日 月 日 月 日 月 日 月 日 月 日 月 日 月 日	寺別日
60 * ·	4 WWDA 連続平日 0 SSDA 連続特別		WDAY SDAY
62 - 1 63 * #	0 WDAY 平日 # SDAY 特別日		VDAY
64 * #		8 11 9 18 9 23 10 9 11 3 11 23 1 1 3 1 23 1 1 3 12 31	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
66 - 1	0 +		·
68 68		上記の入力では、入力順に上書きされます。 WWDASSDAでは4組までの月日~月日を一括設定できます。 #	奥数指定不可。1 データのみ
70	週間 WSCH		
72 * 0	) WSCH WSCH		VSOH
74	エーキンチャン 大文字の英		
76	日間 DSCH		日間
78 * 0		····································	SCH
80 - 0			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
81 * C 82 - C	DSCH LIG	A 8.00 0 9.00 100 12:00 100 13:00 40 14:00 100 18:00 100 19:00 50 20:00 50 21:00 0	SCH
83 - C 84 * C	D + DSCH HEA	A:         8:00         0         9:00         100         12:00         100         12:00         100         12:00         100         12:00         -4	DSCH
85 - C 86 - C			
87 88	半角4文字以 大文字の英	2内 A方式とS方式の最後の時刻は0K-4 	
89		■運転状態から計算を始める時はここを + とします。	
91	運転 70%	運転に開始されて「運転に開始されて」運転に開始されて「運転に開始されて」運転に開始されて「運転に開始されて」運転に開始されて「運転に開始されて」運転に開始されて「運転に開始されて」	<b>里車</b> 元 2013年1月
93 * 0			DSCH
95 × 0	・ ・ USCH USH 半角3文字以		
96 97	<u>大文字の英</u>		
98 99	運転条件 OPCO		<b>匪転</b> 条件
100 101 * 0	<u>命名</u> 0 0PC0 0PC1	時刻 WX WX SILE (*C) (*C) (%) (%) 時間 5月用(*C)(*C)(%) 時間 3月用(*C)(*C)(%)(%) 時間(m3/m2h) - 6.00 050 26 26 26 50 50 1:00 05H 22 22 40 40 2:00 05C 24 24 50 50 4.0 -0	IPCO
102 * 0 103	) + OPCO OPC2 半角4支字比	6:00         OSC         26         26         50         50         1:00         OSH         22         22         40         40         2:00         OSC         24         24         50         50         4.0         -C           以内         26         26         50         50         1:00         22         22         40         40         2:00         24         24         50         50         4.0         -C	PCO
104 105	大文字の英	数字 ※ 予熱終了が24時または運転停止時刻を超える場合、その時刻で予熱完了になります。	
113 114 <b>S</b>	COMMON end		

] <b>∏</b> -5s	<spac>の入力画面</spac>	(全ケースに共通です)
----------------	--------------------	-------------

	図Ⅱ-5s <spac>の入力画面 (全ケースに共通です)</spac>			
ABC	DEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZAAABACADA 4 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26	AE AF 27	AG	AH 1
<mark>*</mark> が有刻	始める前に カラムABCDには制御コードが入っています。壊さないようにしてください。 MF Grouplend または <mark>Signal</mark> または <mark>Signal</mark> inue をダブルクリックすると、コピーができます。 戻る 次へ			
l O	Group またはSPAC の左のセルに「+」がある場合、ダブルクリックすると、削除ができます。			
	Group         1つのGroupに2000SAPDを入れられます。           4文字以内         原米利用 道灯	SPAD 有効		Group1 Group1
	■ まデータ SPAQ WSGH 地上高 階高 天井高 室内 範囲 床面積 飲値またはExce民切による入力)	部材		Group1
* 0	BRAC         Imp         Imp <td>9</td> <td>MFW</td> <td>Group 1 Group 1</td>	9	MFW	Group 1 Group 1
	大文字の英数字 0 ← default		MFW MEW	Group1 Group1
	<op> <op> 星光利用時 显光利用時</op></op>		MFW	Group1
	変 意種 EXFS 品種 7347 高端高度 指気型 高台高さ 畑田長さ 窓面積低鉄値、Exce庁() 21%-215月用 番号 [m/2/m2h][36] [m] [m] [m]		MFW	Group1 Group1
0	WNDW 0 S 12.8级 2中間 12.86		MFW	Group1
: 0	* WNDW 0 W 12.803 2.008		MEW	Group1 Group1
			MFW	Group 1
0	* WNDW 0N 12805 24PB 1295		MFW	Group1 Group1
	+0 PSCH 空調on時% 25CH 空調on時% DSCH 空調on時% DSCH 空調on時% DSCH 空調on時% DSCH 空調on時%		MFW	Group 1
			MFW	Group 1
	使えません。 フラインド間時または無し フラインド間時 0.c-default All-c-default		MFW MFW	Group1 Group1
			MFW	Group1
	日射 長波 COP>結影線酒 外費 WDDN EXPS 励切率 砂封索楽型ドは新設肌材は 外類面積(数)信 Evon(で)		MFW MFW	Group1 Group1
		考	MFW	Group1
0	0WAL 0W S 1902 38.04	1	MFW MFW	Group 1
0	+ OWAL 0 1902	1	MFW	Group1
0	+ OWAL OWC N 123	1	MFW MEW	Group 1
0		1	MFW	Group1
	注:ビロティー床などを含む 80 90 0 0.2 ←default		MEW	Group 1 Group 1
	内壁 WCON		MFW	Group1
0	3月用 王→ド 3月用 [m] 2021 日 0 - 0 - 0 - 0 - 0 - 0 - 0 - 0 - 0 - 0		MFW MFW	Group 1
0	IWAL FL UCC 0 00230 WAL CL 0-cx≥ 0 80258	1	MFW	Group 1 Group 1
0	+ TWAL TW 0:∞2 → 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5	1	MFW	Group1
	detaut→ U U		MFW	Group 1 Group 1
	接地壁 woon 提出 接地壁面積(数值、Exceltt)		MEW	Group1
2	GWAL (m')		MFW	Group 1 Group 1
			MFW	Group1
	異型語材 WOON 断面形状 BIM MAGN 医Coll (数)		MFW	Group 1
0	<u>31冊 長辺[m] 投辺 [m]</u> DECO 0.7 0.7 288		MEW	Group 1 Group 1
			MFW	Group1
-	FXF5が20月を14回日度か1. 随間特性 Zケジャール指定		MFW MFW	Group 1 Group 1
	侵入外気 EXPS 計算 または DSCH 空調の時,off時 隙間長さ(鉄)値、Excelt()		MFW	Group 1
0	51用 方法  -  -  -  -  -  -  -  -  -  -  -  -  -		MEW	Group1 Group1
•	default→ 0 隙間特性=5 0 0		MFW	Group1
+	在至人類 050H 作業		MFW	Group 1 Group 1
			MFW	Group 1
U	(2017 2020 3:3433/71 0/2 1:6/2/m2 複数行業左示) default→ 3 0.2 人/m2		MFW MFW	Group 1 Group 1
			MFW MEW	Group 1
	<u>NCC 2011 1033</u> 31用 形式 電気容量単位 [2]		MFW	Group 1
0	LIGH LIG 2/2 首 举升 20 1/W/m2 270 270		MFW MEW	Group 1
	PERALIZE (*) GORDAN <sup>7</sup> I 20 W/III2 (VU		MFW	Group 1
-	発熱機器 DSOH 海和 別用 古式 照動局 満動局 単位		MFW MEW	Group 1
)	HEAT HEAT 11自然冷 20 11W/m2		MEW	Group 1
	複數行指定不可 default→ 1 W/m2		MFW MFW	Group 1
	室内熱容量 顕熱の熱容量 顕熱容量 潜熱容量		MFW	Group 1
0			MFW MFW	Group 1
	複数行指定不可 A 40 80 ←default		MFW	Group 1
-			MFW MFW	Group 1 Group 1
	スペース OPCO 除去熱量 除去熱量 (株式製量 (株式製量 CA4U 夏朝 冬期 中熱風 一冷暖房心でも空間運転中は所定の換気がされます。		MFW	Group 1
n	12種類条件 51用 12種類 消費数 消費数 消費数 引用 Opes Opes Opes Opes Opes Opes Opes Opes		MFW MFW	Group 1
•	Kit         Kit <td></td> <td>MFW</td> <td>Group 1</td>		MFW	Group 1
			MFW MFW	Group 1 Group 1
	<u>室〒</u> →90終了		MFW	Group1
	IS <u>cont</u> inue		MFW	Group 1 Group 1
	4文字以内 星光利用 通灯			Group1
-	室 テーダ、SPAU WSUH - 地上高 階尚 大开高 至内 範囲 床面積(数値またはExce民による入力) 命名 引用 [m] [m] [m] (+ F [m] [m]	1		Group 1
0	+ SPAC MFE WSCH 0.0 3.6 2.6 302.58	9	MFE	Group 1
			MEE	Liroup 1

中略

166		装置容量[W/m	1] <mark>※ピー</mark>	ク計算では	参照しません。		外調機	「装置	容量o	n/off –	׼-	ク計算で	は参照る	きれませ	No				 MFE	Group1	0
167	ZAN-Z OPCO	除去熱量	除去熱量	供給熱量	供給熱量		O AHU	夏期	冬期	中間期	←冷暖	房なしで	も空調	重転中に	「所定の	換気が	されま	す。	MFE	Group1	0
168	運転条件_引用_		潜熱	顕熱	潜熱	_	引用	CDHS	CDHS	ODHS	← ODH9	の順(停	止する場	- ' J 合	とする)				MFE	Group1	0
169 * 0	SOPC OPC1	100	100	100	100			CDHS	CDHS	CDHS									MFE	Group1	0
170	複数行指定不可 default	→ 100	100	100	100	-					-								MFE	Group1	
171																			MFE	Group 1	
172																			MFE	Group1	
173	室データの終了																		MFE	Group 1	
174 \$\$:	S_continue	「最大SPAC数」																	MFE	Group1	
175																				Group1	
181																					
182	<u>グルー</u> ブ の終了																				
183 \$	Group_end < %	E> 同一グループP	内のSPAC数の	)上限は10室	ਟਰ.																
184																					
185																					
186																					
187 *	CMPL																				
188																_	_				

1 2 3 4 5 6 * 7 7 * 8 9 9 10 11 12 13 14	"SPAC" No 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	→ "ZO key SPAC SPAC SPAC SPAC SPAC SPAC SPAC SPAC SPAC SPAC	NE <sup>™</sup> →	"Mzone" クリ full name	→ "Tzo SPAC数 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	<b>両応。 と段</b> 再読込 area (m2) 302.58 302.58 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0		<b>新・生</b> 戻る		ファ-1	(ル変換	a,	熱負荷	 前計算		Zone集				
2 3 4 5 6 8 7 8 9 10 11 12 13 13 14	SPAC No 1 2 3 4 5 6 7 7 8 9 9 10	key SPAC SPAC SPAC SPAC SPAC SPAC SPAC SPAC	name MFW MFE	クリ full name	ア SPAC数 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	再読込 area (m2) 302.58 302.58 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0		<u>戻</u> る	Į	771	「ル変势		熱負行	可計算		Zone <b></b>	;			
2 3 3 5 5 7 8 9 9 10 11 12 13 14	SPAC No 1 2 3 4 5 6 7 8 9 9 10	key SPAC SPAC SPAC SPAC SPAC SPAC SPAC SPAC	name MFW MFE	クリ full name	ア SPAC数 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	再読込 area (m2) 302.58 302.58 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0									-					
4 5 6 * 7 * 8 9 10 11 12 13 13 14	SPAC No 1 2 3 4 5 6 6 7 7 8 9 9 10	key SPAC SPAC SPAC SPAC SPAC SPAC SPAC SPAC	name MFW MFE	full name	SPAC数 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	中語元2公 area (m2) 302.58 302.58 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0														
5 * 7 * 8 9 10 11 12 13 13 14	No 1 2 3 4 5 6 7 8 8 9 10	key SPAC SPAC SPAC SPAC SPAC SPAC SPAC SPAC	name MFW MFE	full name	SPAC数 1 1 1 1 1 1 1 1 1	area (m2) 302,58 302,58 0 0 0 0 0 0 0 0														
6 * 7 * 8 9 10 11 12 13 14	1 2 3 4 5 6 7 8 9 9 10	SPAC SPAC SPAC SPAC SPAC SPAC SPAC SPAC	MFW MFE		1 1 1 1 1 1 1 1 1	302.58 302.58 0 0 0 0 0 0														
7 * 9 10 11 12 13 14	2 3 4 5 6 7 8 9 9 10	SPAC SPAC SPAC SPAC SPAC SPAC SPAC SPAC			1 1 1 1 1 1 1	302.58 0 0 0 0 0														
8 9 10 11 12 13 14	3 4 5 6 7 8 9 10	SPAC SPAC SPAC SPAC SPAC SPAC SPAC SPAC			1 1 1 1 1	0 0 0 0														
9 10 11 12 13 14	5 6 7 8 9 10	SPAC SPAC SPAC SPAC SPAC SPAC			1 1 1 1	0														
11 12 13 14	6 7 8 9 10	SPAC SPAC SPAC SPAC SPAC			1 1 1	0														
12 13 14	7 8 9 10	SPAC SPAC SPAC SPAC			1	0														
13 14	8 9 10	SPAC SPAC SPAC			1															
14	9 10	SPAC SPAC				0														
	10	SPAC			1	0														
15					1	0	· · ·				-		-	0		40				
16	2010	新小东西。	(10) E +	也实现来去。	₩7.\_>	10	1	2		4	1 5	<u>6</u>		8	y y	10				
10	ZUNE	<u> </u>	CIULX FIL:	指定 Cさま full name	<i>せん)→</i>   SDAC##	10 (m2)	MEW	MCC	ONE I	こ周	ଏ କୁ ତା	ACEX	(7)定業	5						
10 *	1	ZONE	7 MF	nun name	9 HOĐ	605.16	1	1	0	n	0	0	Ο	Ω	0	0				
20	2	ZONE	<u> </u>		0	000.10	l Ó	Ó	Ŭ	Ŏ	Ŏ	Ũ	Õ	Õ	ŏ	ĬŎ				
21	3	ZONE			0	0	0	Ö	Ō	Ō	0	0	0	0	0	Û				
22	4	ZONE			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
23	5	ZONE			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
24	6	ZONE			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
25	7	ZONE			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
26	8	ZONE			0	0				0		0	0	0	0					
27	10	ZONE			0	0			0	0		0	0	0	0	0				
20	10	ZONE			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
30	Mzone	数の変更の	(10以下は	指定できま	せん)→	10		٨	Izone	に属	する ZC	)NE数	の定調	Ę						
31	No	key	name	full name	SPAC数	area (m2)	Z_MF													
32	1	Mzone			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
33	2	Mzone			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				_
34	3	Mzone			U	0					U	U	U	U	U					-
35	4	Maana			0	0				0		0	0	0	0	0				-
30 97	0 6	Mzone			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
38	7	Mzone			0	0	1 ů	Ő	Ŏ	ŏ	1 0	Ő	0	0	0	Ŏ				
39	8	Mzone			Ŭ	Ő	Ū.	Ō	Ō	0	0	0	0	0	Ū.	Ō				-
40	9	Mzone			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
11	10	Mzone			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
12	-	*****	(10) 170 1	4 kr. prim	11.7.5		_	_			+ 7	21	~ <del>``</del>	-						
13	Izone	- 剱の変更(	이에서 제공	指定できま	せん)→ Lenac##	10		1	zone I	- 周	9 🌣 Ma	one⊕∬	の定義	5						
14	1	Tzone	name	iuli name	SPAC安社 0	area (m2)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
46	2	Tzone			0	0	1 ñ	L ů	L ů	L ů	L n	0	0	n	n n	L ů				
47	3	Tzone			0	0	Ŭ	ĬŎ	ŤŎ	ĬŎ	ĬŎ	Ŭ	Ŏ	ŏ	ŏ	ŤŎ				
48	4	Tzone			Ű	0	Ö	Ö	Ö	Ō	Ö	0	Û	Ō	Û	0				-
\$9	5	Tzone			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
50	6	Tzone			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
j1	7	Tzone			0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0				
52	8	Izone			0	0						U	U	U	0					
13	9	Tzone			0	0						0	0	0	0					-
55 *EN	D	Tzone			U	U	0	0	0	0	0	U	U	U	U	0				-
70 · CIN	-																			

図Ⅱ-5z <ZONE>の入力画面 (全ケースに共通です)

補足: <COMMON> 次節(4)の①ケース1(次章 2-1 ケース1)の入力になっています。<SPAC> 2つの SPAC (MFW と MFE) が入力されています。

<ZONE> 2つの SPAC (MFW と MFE)を集計した ZONE (Z\_MF) が定義されています。

<ZONE>の画面の上部の ファイル変換 熱負荷計算 Zone 集計 のボタンをクリックして、 実行モジュールを起動します。 <Ⅱ部>

#### (4) 4つのケーススタディ(計算モードと出力形式)

- ・ここでは、計算モード: 年間計算(シミュレーションモード) と
   ピークモードの計算(冷房ピークと暖房ピーク)
   出力形式 : 詳細出力と簡易出力
  - を取り上げます。
  - これらの組み合わせで4ケースとします。
    - ①ケース1(年間計算、詳細出力)
    - ②ケース2(冷房ピーク計算と暖房ピークを計算、詳細出力)
    - ③ケース3(年間計算、簡易出力)
    - ④ケース4(冷房ピーク計算と暖房ピークを計算、簡易出力)
- これを 2-1 章~2-4 章で実際に操作していきます。

## (5) 計算モード(シミュレーションモード と ピーク計算)

- <シミュレーションモードの計算>
  - 一般的な非定常熱負荷計算の計算法です。
  - ・装置容量(冷暖房の能力のことです)を与条件とします。
  - この装置容量の制約の中で、除去熱量(空調で処理すべき熱量)を求めます。
- <ピークモードの計算>
  - ・空調設計用の装置容量を求めるための計算法です。
  - ・予熱時間数を与条件とします。
  - ・予熱中の除去熱量は未知数です。なお、予熱中の除去熱量は一定値とします。
  - ・未知数のまま計算を進めて、予熱終了時に、室温湿度が設定条件になるように、予熱中の 除去熱量の値を解きます。
  - ※予熱時間以外は、装置容量の制約を外して除去熱量が求められます。 一般的には、予熱中の除去熱量がピーク値で求めたい装置容量ですが、夏期では予熱時間以外 でピーク値が発生することがあります。

#### (6) 出力形式(詳細出力と簡易出力)

- ・計算そのものは、詳細出力も簡易出力も、全く同じです。出力形式の違いだけです。
- ・HASPでは、同時刻で直前と直後の2回計算します。
  - 空調開始時刻、外気導入開始時刻、空調終了時刻では計算条件が不連続に変化するため、 同じ時刻に2回計算する必要があります。
- ・なお、空調が継続停止中、継続運転中で外気導入にも変化がない場合は、
   直前・直後で条件は変わらないので、直前で計算した結果を直後の値に流用します。
- <詳細出力>
  - 同じ時刻の直前と直後の2回出力されます。
  - 詳細出力では、同じ時刻に2つの値を持つので、例えば、空調開始時の除去熱量を折れ線で描くと、 直前の値0から直後に不連続に立ち上がるように描かれます。
- <簡易出力>

同じ時刻に1回だけ平均値が出力されます。

- なお、平均値と言っても、同じ時刻の直前と直後の平均値ではありません。 前時刻の直後の値と当時刻の直前の値の平均値が、当時刻の値として出力されます。
- 例えば、時間区分が1(60分計算)の場合、
  - 8時に出力される値は、7時直後の値と8時直前の値の平均値です。
     9時に出力される値は、8時直後の値と9時直前の値の平均値です。
     10時に出力される値は、9時直後の値と10時直前の値の平均値です。

※簡易出力では棒グラフで熱負荷を描きます。

上記で例えば、空調開始時が9時とすると、

8時の棒グラフの値は0で、9時から棒グラフが立ち上がる図になります。 簡易出力でも、空調開始前後の棒グラフは不連続に見えます。

# 2-1 ケース1:年間計算・詳細出力

# (1) 入力データの確認

・入力済の ACLD\_HEX15\_InputSheet.xlsm ですが、計算条件に関係する項目に絞って確認します。

<ol> <li>計算モ</li> </ol>	- K •	出力形式	式・気象	象データ	ヌ (こ)	こだけ	ケースレ	こよって	変わり	ます)		
74 41 107 32	□ 緯度•経度	は入力不要(Inp <sup>-</sup>	では自動入力、	hasHではファ・	(ルから直接)	(力)		□ 時差は入力	の不要(Inpでは自動	カ入力、hasHではファ	イルから直接入力	)
建物俄委	 [度分]	経度 [度分]	[m]	地砌反射率 [%]	_	●準温度 [%]	限界日射取得 [W/mi]	時差 UTC ±[h]	- HCNTL 都市名	壬二匁形式→郡市名 3 気象チータの	→ファイル名の順 ファイル名	
BUIL			30.2	10	24.0	50	200		東京	36300110_SIJ	nasH	
 	<mark>南緯は</mark> −値	西経は-値	defa hasH = * EA F	ault→ 10 RY 0110104	24.0 J LNR 4	50 3630 Japan	200 Tokvo	9 35413N 1394	<u>1~4/4</u> 55E T= 3.00 H=	1~~5/5 € P VH= 250		
		- 気象デー			+尊期	3		太陽位置	人の発熱	時区分数		
計算制御	計算出力	要重 SI ・ モード モード	データ ガ 形式 年	)走開始 月日日	本計算開	始 :	+算終了 月日	計算 計算日	基準	nJM 1~12	PEAK 熱負荷	計算制御
CNTL	0:シミ 1:詳細	出力	D:標準年氨創	12 15	1	1	12 31	15 1	1:TR(設計室温	基準 2	AHXT	* ONTL
│ default—> └複数行指定不可	0 0	<b>0 ●_</b> └雪雷∓ドノ	0 🔨	1215 カ不要(Inp では	1 自動入力 hay	1 :Hではファイル	12 35 から直接入力)	15 1	1 ← de faul	t 1 ← defau	It AHXT	複数指定不可。1.
	⇒1 <i>k</i> **	- 1×						3.9. (		2 1 1 1 1 2		
<cntl></cntl>	・計算	モード		0:	シミュ	レーシ	(ヨンモ	- F. (	装置容量	を与条件と	して除去素	恐量を求める)
	・出力	形式		1:	詳細出	け						
	・気象	データ	形式	0:	標進年	気象デ	ータ					
	、社営	田田		10	/15/7	品土明	441 7	1/10.1	0/91 m	1年な大利	皆しし	t
	• 可 异	旁间		12	/10 (-	明  定  開		1/1/~1	2/31 0)	1中を平司	昇としる	<b>к</b> 9 <sub>0</sub>
<buil></buil>	・都市	名		東	京							
	・気象	データ	のファイル	名 36	300110	)_SI. ha	usH(東	京・20	01-2110	年平均、	SI 単位, I	nasH形式)
	※気	象データ	形式 =	→ 都市/	名 ⇒ ≶	気象デー	タファ・	イル名	の順に入	力します。		
	2	れらは個	を補が"	リスト	表示" さ	されるの	でリス	トの中か	ら選びす	きす。		
※	(CNTL)	し下の	「百日け~	シケース	に土通	レーキー	7	1	2.200	~ / 0		
	(UNIL/		「見口は三				7 ≹L_笘) ᅴ	+ - <del>}</del>				
		• <b>太</b> 陽	立直の言	⊤昇 □ □	1279	1・世日	訂昇 しま	K 9 o	<u>+-</u> 11 ()			
		<ul> <li>人の</li> </ul>	発熱の表	長準温度		1:TR 基	準で李飾	節ごとに	変化させ	ます。		
		・時区	分数(nJ	HM)		2:2区;	分、つま	まり 計算	時間間隔	を 30 分単(	立とします	す。
② 発熱割	合 (全	ケースに	こ共通っ	です)								

			LIGH(開	(明)	0	CUP()	()	HEA	T(機器	類)		
発熱割	合	夏期	月 冬期	] 中間期	1 夏期	冬期	中間期	夏期	冬期	中間期		発熱割合
		٢%	] [9/	5] Г%	] [%]	٢%]	٢%]	٢%]	٢%]	٢%]		
HRAT			0 7	0 70	0 70	70	70	70	70	70	⇐ 標準気象データ等の場合に読み込まれる	* HRAT
HRAT		S 10	00 10	0 100	100	100	100	100	100	100	⇐ 気象データが夏期ピーク(_S)の時に読み込まれる	* HRAT
HRAT	1	N 2	20 2	0 20	20	20	20	20	20	20	⇐ 気象データが冬期ピーク(_W)の時に読み込まれる	* HRAT
		10	0 10	0 100	) 100	100	100	100	100	100	←default	複数指定不可,1

<HRAT> ・元々のHASPでは1行入力でが、HASPinpでは年間・冷房・暖房の3行入力します。 気象データのファイル名に合わせて、3行の内の1行が自動的に選ばれます。

※年間気象データの場合は、11カラムが空白の1行目が選ばれます。

気象データが冷房ピーク気象データなら、11カラムが"S"の2行目が選ばれます。 気象データが暖房ピーク気象データなら、11カラムが"W"の3行目が選ばれます。

3	特別日	等	(全	ケー	-ス	に共	通	です	-)																		
特別日	くオプション	>	(	日本 20	023		上左の	)セルで	年またに	は都市を	選べば	、登録	斉の特別	川日を一	-括設定	こできま	す。				28	←2月0	り日数			特別日	
		月	L	_ 具 _		月	<b>)</b> 日	月	日	月	日	月	日	月	日	月	日	月	日	月	日	月	日				
WWDA	連続平日	1	1	12	31																				*	WWDAY	
SSDA	連続特別日																								-	SSDAY	
WDAY	平日																								- 1	WDAY	
SDAY	特別日	1	1	1	2	1	9	2	11	2	23	3	21	4	29	5	3	5	4	5	5	7	17		*	SDAY	
+		8	11	9	18	9	23	10	9	11	3	11	23							1	3	12	31		*	+	
+																										+	
+																									-	+	
+																										+	
			上記0	つ入力で	ミは、ノ	し 力順に	こ上書	きされま	ます。						WWDA	,SSDA	では4糸	目までの	)月日~	~月日	を一括	設定で	きます。	5	-	複数指定不可。	1
週間	WSCH	<wsch< td=""><td>−I&gt;の[1]</td><td>[2].[3](</td><td>t.<ds< td=""><td>CH&gt;の1</td><td>,2,3行</td><td>目と<op< td=""><td>co&gt;の;</td><td>スケシュー</td><td>1,2,31</td><td>こ対応し</td><td>ます。</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>週間</td><td></td></op<></td></ds<></td></wsch<>	−I>の[1]	[2].[3](	t. <ds< td=""><td>CH&gt;の1</td><td>,2,3行</td><td>目と<op< td=""><td>co&gt;の;</td><td>スケシュー</td><td>1,2,31</td><td>こ対応し</td><td>ます。</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>週間</td><td></td></op<></td></ds<>	CH>の1	,2,3行	目と <op< td=""><td>co&gt;の;</td><td>スケシュー</td><td>1,2,31</td><td>こ対応し</td><td>ます。</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>週間</td><td></td></op<>	co>の;	スケシュー	1,2,31	こ対応し	ます。													週間	
スケジュ・	<u>ール <mark>命名</mark></u>	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	祝日	特別日																スケシュール	
WSCH	WSCH	1:DSC	1:DSC	1:DSC	1:DSC	1:DSC	2:DSC	3:DSC	3:DSC	3:DSC	Hの3行	目													*	WSCH	
2	ド色イ文字いに						-	2	2	2	< -1-E-																

・気象データのカレンダーをそのまま使う場合は、この入力は不要です。

・HASP に登録されている 2001-2010 年の標準年気象データでは 2006 年の祝日が登録されています。 ・なお、祝日は時々変わります 2006年は 12/23 が天皇誕生日でした。2018年からは 12/23 は平日で、天皇誕生日は 2/23 です。

2016年に山の日(8/11)が祝日に追加されました。

- <WWDA> 一旦 1/1~12/31 を全て七曜に戻しています。
  - 夏休などを、期間で特別日の指定ができますが、上記の例では無指定です。 <SSDA>
  - <WDAY> 期間指定した特別日を平日に戻すことができますが、無指定です。

<SDAY> 2023年の祝日と1/3と12/31を特別日<SDAY>として登録しています。

※上段の 日本 2023 年 で一括入力できます。(2023 年は 1/1 が日曜日の平年です)

入力例では、日曜と祝日と特別日を同じに扱っています。 • <WSCH>

〈ケース1〉

# (2) プログラムの実行

# 2F) プログラムの実行1/ファイル変換

・入力データを確認したので、
 <ZONE>の画面で、ファイル変換 ⇒ 熱負荷計算 ⇒ Zone 集計 の順にプログラムを実行します。
 手順① <ZONE>の画面で①「ファイル変換」のボタンをクリックします。



#### 2Z) プログラムの実行3/ゾーン集計

- ・ゾーン集計は元々の HASP にはない HASPinp 独自の機能です。
  - ・1つの室(SPAC)であってもゾーン集計をします。
     HASPinpのゾーン集計には、SPAC⇒Zone⇒Mzone⇒Tzoneの集計機能の他に、時分⇒日⇒月⇒年の 積算機能や、時分ピークや日積算ピークの情報をソートする機能があります。
     これらはグラフ作成に必要な情報としてゾーン集計の結果ファイルに反映されます。
  - 手順⑧ 〈ZONE〉の画面で⑧「ゾーン集計」のボタンをクリックします。



- ・上2行の、頭が SPAC\_ のゾーンは、熱負荷計算 ACLD\_HEX15. exe の結果と同じですが、 冷房・暖房別の負荷や、日・月・年の積算値、日積算ピーク・時分ピークのピーク発生時 をソートした情報などが追加されます。
- ・3行目の、頭が ZONE\_ は、MFW と MFE を集計したゾーン Z\_MF の出力です。

計算が完了すると DOS 窓⑩に "ACLD\_HEX15 Completed" と表示されます。 #### 終了 #### はバッチの終了表示です。



・ゾーン集計で出力されるファイルは

- SPAC\_MFW\_.csv と SPAC\_MFE\_.csv と ZONE\_Z\_MF.csv の3つです。
- ・ゾーン集計の出力ファイル名の頭には、SPAC、ZONE、Mzone、Tzone が付くので、元の熱負荷計算の 出力ファイルと区別できます。
- ・この後の手順⑪でグラフを描きますが、HASPinpのグラフはゾーン集計の出力ファイルを使います。
- ・表 2-1-Z に、Zone 集計の結果(SPAC\_MFW\_. csv の例)を示します。



※ ACLD\_HEX15 では、SPAC の終わりの":"は"空行"と同じ扱いです。
 ACLD\_HEX15\_inp での"Group"は入力画面で Group 単位でのコピーなどの操作をするためです。
 NewHASP/ACLD や NewHASP\_2 のような Group での室間空気移動の機能は、ACLD\_HEX15 にはありません。

	10	20		30	40 50	60	70 80	• • • • •	30 100	110	120 130	140	150	160	170 180
1 2 3 4 5 6 7	YEAR.MON.DAY, 6, 1, 1, 6, 1, 1, 6, 1, 1, 6, 1, 1, 6, 1, 1, 6, 1, 1, 6, 1, 1, (中略)	WK, HR 9, 0 9, 1 9, 1 9, 2 9, 2 9, 3	R, , DBR 1,1, 0,15 ,0, 0,14 ,1, 0,14 2,0, 0,14 2,0, 0,14 2,0, 0,14	02925E+02, 94814E+02, 94814E+02, 878277最老 878277最老 87277	cLS 0.2899656E+02 0.2900669E+02 0.2900669E+02 可の"0,1" 十算の初日	RHEXS 0.0000000E+00, 0.0000000E+00, 0.0000000E+00 は助走期間 の 0:00 直径	AFEXS 0.0000000E+0 0.0000000E+0 0.0000000E+0 月の最終日 後として出	,FS, 0, 9, の2 力さ	XQR 0.5266316E+01, 0.5253880E+01, 0.5253880E+01, 4:00 直後 れます。	CLL . -0.1704858E+01, -0.1552486E+01, -0.1552486E+01, -0.1552486E+01, -0.114E+01, 114E+01, 346E+01,	RHEXL , 0.0000000E+00, 0.0000000E+00, 0.0000000E+00, 0.0000000E+00, 0.0000000E+00,	AHEXL , 0.0000000E+00, 0.0000000E+00, 0.0000000E+00, 0.0000000E+00, 0.0000000E+00,	L, MF 9, 0. 9, 0. 9, 0. 9, 0. 9, 0. 9, 0.	(1         , Y           0000000E+00,         ,	OBI,SPAC=,MFW_,W 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1,
287 288 289 290 291 292 293 294 296 297 298 296 297 300 301 302 303 304 305 306 307 308 309 311 312 313 314 313 314 317 316 316 317 318 319 202 323 324 202 203 202 203 203 203 203 203 203 203		9,9,477848111223334445566677889900011111122333441455666778899000111111223334445566677889900011111122333441455666777889990	$\begin{array}{c} .0, \ 0, 111 \\ .1, \ 0, 11 \\ .1, \ 0, 0, 0, 11 \\ .1, \ 0, 0, 0, 11 \\ .1, \ 0, 0, 0, 11 \\ .1, \ 0, 0, 0, 11 \\ .1, \ 0, 0, 11 \\ .1, \ 0, 0, 11 \\ .1, \ 0, 0, 11 \\ .1, \ 0, 0, 11 \\ .1, \ 0, 0, 0, 11 \\ .1, \ 0, 0, 0, 11 \\ .1, \ 0, 0, 0, 11 \\ .1, \ 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, $	298006E+02, 298006E+02, 29801E+02, 21801E+02, 21972E+02, 23837E+02, 25835E+02, 25835E+02, 25835E+02, 25835E+02, 25835E+02, 20079E+02	0.2547547E+02 0.2547547E+02 0.2605569E+02 0.2605569E+02 0.2605569E+02 0.2502782E+02 0.2502782E+02 0.2390236E+02 0.2390236E+02 0.2390236E+02 0.239025E+02 0.239025E+02 0.239025E+02 0.239025E+02 0.2295664E+02 0.2274832E+02 0.2275700E+02 0.2221477E+02 0.2227477E+02 0.221477E+02 0.221477E+02 0.2183527E+02 0.2183527E+02 0.2183527E+02 0.218365E+02 0.2168766E+02 0.2168766E+02 0.2168766E+02 0.2168766E+02 0.2168766E+02 0.2168765E+02 0.2168765E+02 0.2168765E+02 0.2168765E+02 0.2168765E+02 0.2168765E+02 0.2168765E+02 0.2168765E+02 0.2168765E+02 0.2459023E+02 0.2459023E+02 0.14088831E+02 0.1468831E+0	0.000000E+00, 0.0000000E+00, 0.000000E+00, 0.000000E+00, 0.000000E+00, 0.000000E+00, 0.000000E+00, 0.000000E+00, 0.000000E+00, 0.000000E+00, 0.000000E+00, 0.000000E+00, 0.000000E+00, 0.000000E+00, 0.000000E+00, 0.00000E+00, 0.00000E+00, 0.00000E+00,	0.000000E+0 0.00000E+0 0.00000E+0 0.00000E+0 0.00000E+0 0.00000E+0 0.00000E+0 0.000000E+0		0.3837973E+01, 0.3837975E+01, 0.3833697E+01, 0.3833697E+01, 0.3833697E+01, 0.3830697E+01, 0.3830697E+01, 0.3822884E+01, 0.3822884E+01, 0.3822884E+01, 0.38231837E+01, 0.38231837E+01, 0.38351837E+01, 0.3835248E+01, 0.3835248E+01, 0.3835248E+01, 0.384531E+01, 0.3845631E+01, 0.3845631E+01, 0.3845631E+01, 0.3845631E+01, 0.3845631E+01, 0.3845631E+01, 0.3845631E+01, 0.3845631E+01, 0.3845631E+01, 0.3845631E+01, 0.3845631E+01, 0.3845631E+01, 0.3845631E+01, 0.3845631E+01, 0.3845681E+	-0.1421881E-01, -0.14211881E-01, -0.1400114E-01, -0.1400114E-01, -0.1306750E-01, -0.1356570E-01, -0.1356570E-01, -0.1313044E-01, -0.1313044E-01, -0.1255974E-01, -0.1255974E-01, -0.1255974E-01, -0.173802E-01, -0.173802E-01, -0.173802E-01, -0.173802E-01, -0.173802E-01, -0.103800E-01, -0.103800E-01, -0.103800E-01, -0.103800E-01, -0.103800E-01, -0.103800E-01, -0.103800E-01, -0.138487E-00, -0.8559278E-00, -0.8559278E-00, -0.8559278E-00, -0.8559278E-00, -0.1225974E-01, -0.1225974E-01, -0.1225974E-01, -0.1225974E-01, -0.1225974E-01, -0.1225974E-01, -0.1225974E-01, -0.1225974E-01, -0.1225974E-01, -0.1225974E-01, -0.1225974E-01, -0.1225974E-01, -0.1225974E-01, -0.1255974	0.000000E+00. 0.0000000E+00. 0.000000E+00. 0	0.000000E+00. 0.0000000E+00. 0.000000E+00. 0.000000E+00. 0.000000E+00. 0.000000E+00. 0.000000E+00. 0.000000E+00. 0.000000E+00. 0.000000E+00. 0.000000E+00. 0.000000E+00. 0.000000E+00. 0.000000E+00. 0.000000E+00. 0.000000E+00. 0.000000E+00. 0.000000E+00. 0.000000E+00. 0.000000E+00. 0.00000E+00. 0.00000E+00. 0.00000E+00. 0.00000E+00. 0.00000E+00. 0.00000E+00. 0.00000E+00. 0.00000E+00. 0.00000E+00. 0.00000E+00. 0.00000E+00. 0.00000E+00. 0.00000E+00. 0.00000E+00. 0.00000E+00. 0.00000E+00. 0.00000E+00. 0.00000E+00. 0.0000E+00. 0.0000E	9, 0. 9, 0.	0000000E+00, 0000000000	8, 8, 8, 8, 4, 4, 4, 4, 4, 4, 4, 4, 4, 4, 4, 4, 4,
	(中略)														
stull9 35020 35021 35022 35023 35024 35025 35026 35027 35028 35027 35028 35027 35028 35027 35028 35027 35038 35039 35031 35035 35038 35048	$ \begin{array}{c} 6, 12, 31, \\ 6, 12, 31,$	9, 37 9, 38 9, 39 9, 39 9, 40 9, 41 9, 42 9, 43 9, 43 9, 44 9, 43 9, 44 9, 44 9, 43 9, 44 9, 44	, U, 0.16 , 1, 0.16 , 1, 0.16 , 1, 0.15 , 1, 0.15	∠/342±+02, 27342±+02, 12733±+02, 12733±+02, 12733±+02, 88129±+02, 88130±+02, 88330±+02, 74673±+02, 63583±+02, 63583±+02, 63583±+02, 63583±+02, 31646±+02,	0.251942/E+02 0.251942/E+02 0.2553067E+02 0.2553067E+02 0.2553067E+02 0.25536109E+02 0.2536109E+02 0.2633766E+02 0.2633766E+02 0.2673642E+02 0.2673642E+02 0.2707611E+02 0.2707611E+02 0.2707611E+02 0.27078402E+02 0.27078170E+02 0.2704802E+02 0.2783770E+02 0.2833051E+02 0.2883051E+02 0.2	<ul> <li>U.UUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUU</li></ul>	U.UUUUU00E+0 0.0000000E+0 0.000000E+0 0.000000E+0 0.000000E+0 0.000000E+0 0.000000E+0 0.000000E+0 0.0000000E+0 0.000000E+0 0.000000E+0 0.000000E+0 0.000000E+0 0.000000E+0 0.000000E+0 0.000000E+0 0.000000E+0	v, 9, 9, 0, 9, 0, 0, 9, 0, 0, 9, 0, 0, 9, 0, 0, 9, 0, 0, 9, 0, 0, 9, 0, 0, 9, 0, 0, 9, 0, 0, 9, 0, 0, 9, 0, 0, 9, 0, 0, 9, 0, 0, 9, 0, 0, 9, 0, 0, 9, 0, 0, 0, 9, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0,	0.5457/00E+01 0.5442013E+01 0.5423507E+01 0.5423507E+01 0.5423507E+01 0.5423507E+01 0.5406242E+01 0.538202E+01 0.538202E+01 0.5382902E+01 0.5372244E+01 0.53756E+01 0.533756E+01 0.533756E+01 0.533756E+01 0.5284364E+01 0.5266316E+01	-U.15940[2]+01], -0.15960[2]E-01, -0.15960[2]E-01, -0.167788E-01, -0.167288E-01, -0.1628672E-01, -0.1639556E-01, -0.1639556E-01, -0.1639556E-01, -0.1639556E-01, -0.1639556E-01, -0.1639556E-01, -0.1639556E-01, -0.1639556E-01, -0.16393556E-01, -0.16393556E-01, -0.163232E-01, -0.161323E-01, -0.161323E-01, -0.161323E-01, -0.161323E-01, -0.161323E-01, -0.163391E-01, -0.163391E-01, -0.163391E-01, -0.163391E-01, -0.1633937E-01, -0.1633937E-01, -0.1704858E-01, -0.1704858E-01,	U,UUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUU	U,UUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUU	9.000       9.000         9.	.UUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUUU	նել,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
	`	$\backslash$		n+ /\ /1	40) 1. =	× (a) 1 末4	4 (1)								

表 2-1-L ACLD\_HEX15 による年間・詳細出力の結果(例:MFW\_.csv)(nJHM=2)

時分(1~48)と直前(0)と直後(1) 計算終了は12/31 24:00 直後

・先頭は見出行で、横方向に239桁あります。

2~35041 行が計算結果で、横方向に 168 桁あります。

・計算の時区分数が nJHM=2(30分間隔)なので、時刻(HR)は 1~48時分で表示されます。

- ・詳細出力では、同一時刻で、直前(0)と直後(1)の2回の出力があります。
- ・総出力行数は 見出1行+0時分の行+8760×2(詳細出力)×2(時区分数) = 35042行になります。

表 2-1-Z HASP\_zone による年間・詳細出力の結果(例: SPAC\_MFW\_.csv) (nJHM=2)

1 2 3 4 5 6 7 8	B+¥=.0. ⊞⊅ YEAR,MON,DAY,   6, 1, 1, 6, 1, 1, 6, 1, 1, 6, 1, 1, 6, 1, 1, 6, 1, 1, (rt+¤久)	20 =, 1, 9, 0,1 9, 1,0 9, 1,0 9, 2,0 9, 2,1 9, 3,0	(家=, 0, DBR 1, ●, 150 0, 0, 145 1, 0, 145 1, 0, 145 1, 0, 145 0, 0, 145 0, 0, 145	80 Area=, 02925E+02 04814E+000000000000000000	302.6, Cla , CLS ,-0.2899656E+0 ,-0.2900669E+0 初の"0,1 計算の初日	ss=,SPAC, Name , CLSc 2, 0.0000000E+0 2, 0.0000000E+0 3, 0.000000E+0 7, は助走期 4, の 0:00 直	*,MFW_, Lname=, , 0LSh ),-0.2899656E+( ),-0.2900669E+( 間の最終 後としてと	,RHXS )2,0.00000 )2,0.00000 日の24: 日力さ∤	000E+00, 000E+00, 000 直 00 直	100 , TRE RHXSc 0.00000 0.00000 後で 。	110 M=, 12, 000E+00, 000E+00, +00, +00, +00, +00,	120 15, 1, 1, 12 RHXSh . 0.0000000E+00, 0.0000000E+00, 0.000000E+00, 0.0000000E+00, 0.0000000E+00, 0.0000000E+00,	100           1, 31, WDname=, 3           AHXS           0.0000000E+00,           0.0000000E+00,           0.0000000E+00,           0.0000000E+00,           0.0000000E+00,           0.000000E+00,           0.000000E+00,           0.000000E+00,           0.000000E+00,           0.000000E+00,           0.000000E+00,           0.000000E+00,	150 6300110_SI., T AHXSc 0.0000000E+00 0.0000000E+00 0.0000000E+00 0.0000000E+00 0.0000000E+00	100         170           ITLE=,ACLD_HEX15         AHXSh           0.00000000E+00,         0.0000000E+00,           0.0000000E+00,         0.0000000E+00,           0.0000000E+00,         0.0000000E+00,           0.0000000E+00,         0.0000000E+00,           0.0000000E+00,         0.0000000E+00,           0.0000000E+00,         0.0000000E+00,	SAMPL FS
35020 35021 35022 35023 35025 35026 35026 35027 35036 35032 35038 35035 35036 35035 35036 35037 35038 35039 35039 35040 35041 35042 35042	$(++ m_{6}^{-})$ $(-++ m_{6}^$	$\begin{array}{c} 9, \ 37, 0\\ 9, \ 37, 1\\ 9, \ 38, 0\\ 9, \ 38, 1\\ 9, \ 39, 1\\ 9, \ 39, 1\\ 9, \ 40, 0\\ 9, \ 40, 1\\ 9, \ 41, 0\\ 9, \ 42, 1\\ 9, \ 42, 1\\ 9, \ 42, 1\\ 9, \ 43, 0\\ 9, \ 43, 1\\ 9, \ 45, 0\\ 9, \ 45, 1\\ 9, \ 45, 0\\ 9, \ 46, 1\\ 9, \ 46, 1\\ 9, \ 47, 0\\ 9, \ 48, 0\\ 9, \ 48, 0\\ 9, \ 48, 1\\ \end{array}$	0, 0.162 1, 0.165 0, 0.155 1, 0.1	27342E+02 27342E+02 12733E+02 12733E+02 12733E+02 19129E+02 90129E+02 90129E+02 90129E+02 90129E+02 16380E+02 1638E+02 11883E+02 11883E+02 11883E+02 11883E+02 11646E+02 21651E+02 12152E+02 12152E+02 1252E+02 15	-0.2519927E+0 -0.2519927E+0 -0.2553067E+0 -0.2553067E+0 -0.2596109E+0 -0.2596109E+0 -0.2596109E+0 -0.2639766E+0 -0.2673842E+0 -0.2778802E+0 -0.2774802E+0 -0.2748902E+0 -0.2748902E+0 -0.2748902E+0 -0.2873051E+0 -0.2821546E+0 -0.2853051E+0 -0.2853051E+0 -0.2853051E+0 -0.2853051E+0 -0.2853051E+0 -0.2853051E+0 -0.2853051E+0 -0.2853051E+0 -0.2853051E+0 -0.2853051E+0 -0.283656E+0 -0.2899656E+0 -0.2899656E+0	2, 0.000000E+0 2, 0.000000E+0 2, 0.000000E+0 2, 0.0000000E+0 2, 0.0000000E+0	$\begin{array}{l} 0.2519927E+0\\ 0.2519927E+0\\ 0.2553067E+0\\ 0.2553067E+0\\ 0.2553067E+0\\ 0.25506108E+0\\ 0.2596108E+0\\ 0.2639766E+0\\ 0.2673842E+0\\ 0.2673842E+0\\ 0.2673842E+0\\ 0.2707611E+0\\ 0.2738970E+0\\ 0.2738970E+0\\ 0.27389770E+0\\ 0.27389770E+0\\ 0.28738970E+0\\ 0.283051E+0\\ 0.283051E+0\\ 0.283051E+0\\ 0.283051E+0\\ 0.283051E+0\\ 0.283651E+0\\ 0.2876890E+0\\ 0.2876890E+0\\ 0.2876890E+0\\ 0.2876890E+0\\ 0.0289655E+0\\ 0.02896555555555555555555555555555555555555$	12.         0.0000           12.         0.0000	100E+00,		100E+00,           100E+00,	0.000000E+00. 0.00000E+00. 0.000000E+00. 0.000000E+00. 0.000000E+00. 0.000000E+00. 0.000000E+00. 0.000000E+00. 0.000000E+00. 0.000000E+00. 0.0000E+00. 0.000E+00. 0.000E+00. 0.000E+00. 0.000E+00. 0.000E+00. 0.000E+00. 0.000E+00. 0.00	0.000000E+00. 0.000000E+00. 0.000000E+00. 0.000000E+00. 0.000000E+00. 0.000000E+00. 0.0000000E+00.	0.000000E+00 0.000000E+00 0.000000E+00 0.000000E+00 0.000000E+00 0.000000E+00 0.000000E+00 0.000000E+00 0.000000E+00 0.000000E+00 0.000000E+00 0.000000E+00 0.000000E+00 0.000000E+00 0.000000E+00	0.000000E+00,	
35045 35046 35047 35048 <b>80245</b> 35050 35051 35055 35055 35055 35055 35056 35055 35056 35057 35058 35059 35060	YEAR, MON, DAY, 6, 1, 1, 6, 1, 2, 6, 1, 3, 6, 1, 4, 6, 1, 5, 6, 1, 4, 6, 1, 5, 6, 1, 7, 6, 1, 7, 6, 1, 8, 6, 1, 9, 6, 1, 10, 6, 1, 12, 6, 1, 12, 6, 1, 15,	<pre>WK, JHM, 9, 48, 9, 48, 3, 48, 4, 48, 4, 48, 6, 48, 7, 48, 2, 48, 3, 48, 4, 48, 2, 48, 3, 48, 4, 48, 5, 48, 7, 48, 6, 48, 7, 48, 7, 48, 8, 48, 7, 48, 7,</pre>	, DBR , 0.144 , 0.126 , 0.115 , 0.176 , 0.200 , 0.200 , 0.174 , 0.156 , 0.138 , 0.136 , 0.136 , 0.137 , 0.148	42761E+02 35547E+02 35279E+02 33214E+02 72418E+02 72418E+02 13569E+02 1360E+02 38268E+02 3	, CLS -0.2117608±0 -0.2057490E±0 -0.4007896±0 -0.4007896±0 -0.1476291E±0 -0.1800805±0 -0.1803055±0 -0.2104219±0 -0.1184468±0 -0.1184468±0 -0.1184468±0 -0.1355±0 -0.398587±0 -0.398587±0 -0.3746171E±0 -0.2437408±0	<ul> <li>CLSc</li> <li>4. 0.0000000E+0</li> <li>4. 0.0000000E+0</li> <li>4. 0.0000000E+0</li> <li>4. 0.0000000E+0</li> <li>4. 0.471352EE+0</li> <li>3. 0.348370EE+0</li> <li>4. 0.0000000E+0</li> <li>4. 0.0000000E+0</li> <li>4. 0.0000000E+0</li> <li>4. 0.2005962E+0</li> <li>3. 0.3290682E+0</li> <li>3. 0.3290682E+0</li> <li>4. 0.000000E+0</li> <li>4. 0.000000E+0</li> <li>4. 0.000000E+0</li> </ul>	. CLSh . 0.2117608E+f . 0.2155049E+f . 0.2057490E+f . 0.0326223E+f . 0.0152940E+f . 0.180305E+f . 0.180305E+f . 0.1383329E+f . 0.1385064E+f . 0.138490E+f . 0.1184390E+f . 0.118480E+f . 0.118680E+f . 0.171E+f . 0.171E+f . 0.1718680E+f . 0.171E+f . 0.2437408E+f	, RHXS 04, 0.00000 14, 0.00000 13,-0.1844 14,-0.81765 04, 0.00000 14,-0.10655 04, 0.00000 14,-0.10003 04,-0.10003 04,-0.10003 14,-0.64977 04,-0.00000 04, 0.00000	, )00E+00, )00E+00, )00E+00, )00E+04, )19E+03, )00E+00, )00E+00, )00E+00, )10E+04, \$69E+04, \$48E+03, )59E+03, )00E+00, )00E+00,	RHXSc 0.00000 0.00000 0.00000 0.43937 0.00000 0.00000 0.00000 0.00000 0.00000 0.00000 0.00000 0.43440 0.10298 0.00000 0.00000 0.00000	000E+00, 000E+00, 000E+00, 000E+00, 000E+00, 000E+00, 000E+00, 000E+00, 000E+00, 000E+00, 000E+00, 000E+00, 000E+00, 000E+00,	RHCSh	AHX8 ,	AHOSC 0.0000000E+00 0.0000000E+00 0.0000000E+00 0.0000000E+00 0.0000000E+00 0.0000000E+00 0.0000000E+00 0.0000000E+00 0.0000000E+00 0.0000000E+00 0.000000E+00	<ul> <li>AP(S)</li> <li>AP(S)</li> <li>0.0000000E+00.</li> <li>0.0000000E+01.</li> <li>0.0000000E+01.</li> <li>0.0000000E+01.</li> <li>0.2294744E+04.</li> <li>0.1721785E+04.</li> <li>0.0000000E+00.</li> <li>0.0000000E+00.</li> <li>0.158258E+04.</li> <li>0.1158225E+04.</li> <li>0.1158225E+04.</li> <li>0.000000E+00.</li> <li>0.000000E+00.</li> </ul>	FS -2-1 -2-1 -2-1 -2-1 -2-1 -2-1 -2-1 -2-
35401 35402 35403 35404 35405 35406 35407 35408 35409 35409 35409 35409	(中略) 6, 12, 22, 6, 12, 23, 6, 12, 24, 6, 12, 24, 6, 12, 26, 6, 12, 27, 6, 12, 28, 6, 12, 28, 6, 12, 28, 6, 12, 30, 6, 12, 31,	5, 48, 6, 48, 7, 48, 1, 48, 2, 48, 3, 48, 4, 48, 5, 48, 6, 48, 9, 48,	, 0.204 , 0.183 , 0.168 , 0.193 , 0.204 , 0.207 , 0.208 , 0.208 , 0.208 , 0.187 , 0.166	11906E+02 37840E+02 30697E+02 38178E+02 42875E+02 77384E+02 37625E+02 71467E+02 36179E+02	,-0.8537181E+0; ,-0.1572172E+0, 0.5535626E+0; ,-0.659752E+0; ,-0.4742398E+0; ,-0.4742398E+0; ,-0.4745103E+0; ,-0.5579100E+0; ,-0.559100E+0; ,-0.1536251E+0,	<ol> <li>0.2787907E+0;</li> <li>0.000000E+0;</li> <li>0.000000E+0;</li> <li>0.359418E+0;</li> <li>0.3458257E+0;</li> <li>0.3458257E+0;</li> <li>0.34079021E+0;</li> <li>0.330285E+0;</li> <li>0.330285E+0;</li> <li>0.300000E+0;</li> <li>0.5797737E+0;</li> </ol>	8,-0.1132509E+0 1,-0.1572172E+0 ,-0.15355268E+0 ,-0.9956768E+0 ,-0.8739774E+0 ,-0.8274127E+0 ,-0.8274127E+0 ,-0.839382E+0 ,-0.1536251E+0 1,-0.1803946E+0	14, -0.38307 14, 0.00000 14, 0.00000 13, -0.10020 13, -0.48341 13, -0.14757 13, -0.38345 13, -0.10075 14, 0.00000	285E+03, 100E+00, 100E+00, 145E+04, 51E+03, 296E+03, 155E+02, 160E+03, 100E+00, 100E+00,	0.10747 0.00000 0.00000 0.55716 0.13094 0.23081 0.20515 0.00000 0.00000	711E+03,- 100E+00, 100E+00,- 100E+00,- 184E+02,- 191E+03,- 21E+03,- 184E+03,- 100E+00, 100E+00,	0.4905497E+03, 0.000000E+00, 0.1002045E+04, 0.5391320E+03, 0.2785287E+03, 0.2691577E+03, 0.3059144E+03, 0.0000000E+00, 0.0000000E+00,	-0.1178224E+04, 0.000000E+00, 0.000000E+00, -0.1877340E+04, -0.1151976E+04, -0.87330964E+03, -0.6717816E+03, 0.8850008E+03, 0.0000000E+00, 0.0000000E+00,	0.000000E+00, 0.000000E+00, 0.000000E+00, 0.0000000E+00, 0.0000000E+00, 0.0000000E+00, 0.0000000E+00, 0.0000000E+00, 0.0000000E+00,	-0.1178224E+04, 0.0000000E+00, 0.0000000E+00, -0.1677340E+04, -0.151976E+04, -0.8330964E+03, -0.8650008E+03, -0.8650008E+03, 0.0000000E+00,	-2-1 -2-1 -2-1 -2-1 -2-1 -2-1 -2-1
35411 35412 35413 35414 35415 35416 35416 35417 35418 35420 35421 35422 35422 35422 35422 35422 35422	YEAR.MON.DAY. 6. 1. 0, 6. 2. 0, 6. 3. 0, 6. 4. 0, 6. 5. 0, 6. 6. 5. 0, 6. 7. 0, 6. 8. 0, 6. 8. 0, 6. 10. 0, 6. 11. 0, 6. 12. 0,	<pre> JHM, , 1488, , 1344, , 1488, , 1440, , 1488, , 1440, , 1488, , 1440, , 1488, , 1440, , 1488, , 1440, , 1488, , 1440, , 1488,</pre>	DBR 0.180 0.203 0.225 0.257 0.265 0.277 0.265 0.256 0.256 0.204 0.204 0.195	02780E+02 09898E+02 34815E+02 00857E+02 33133E+02 33133E+02 36904E+02 00975E+02 36499E+02 15800E+02 59145E+02	<ul> <li>CLS</li> <li>-0.4269605E+0.</li> <li>-0.3442722E+0.</li> <li>-0.1381324E+0.</li> <li>0.3932108E+0.</li> <li>0.396149E+0.</li> <li>0.396149E+0.</li> <li>0.5874899E+0.</li> <li>0.4192347E+0.</li> <li>0.1516306E+0.</li> <li>-0.9478642E+0.</li> <li>-0.2757034E+0.</li> </ul>	. CLSc 2. 0.3952594E+0 2. 0.3801893E+0 2. 0.8757838E+0 1. 0.1812346E+0 2. 0.4026469E+00 2. 0.5876537E+0 2. 0.6389734E+0 2. 0.231030E+0 1. 0.1198164E+0 2. 0.7231571E+0	. CLSh ,-0.4664863E+( ,-0.3822914E-( ,-0.2857102E+( ,-0.703193E+( ,-0.703193E+( ,-0.6031998E+( ,-0.1636739E-( ,-0.8345294E+( ,-0.8340556E+( ,-0.2146026E+( ,-0.3480195E+(	, RHXS 12, -0.18579 12, -0.15699 12, -0.44056 12, 0.79892 11, 0.78040 10, 0.30259 11, 0.42254 10, 0.42254 10, 0.42374 10, 0.42374 11, 0.75822 12, 0.72448 12, -0.79761	, 19E+02, 03E+01, 03E+01, 183E+01, 155E+02, 193E+02, 193E+02, 193E+02, 193E+02, 194E+02, 190E+01, 191E+01, 191E+01, 191E+02, 191E+02, 192E+02, 193E+01, 192E+02, 193E+01, 193E+0	RHXSc 0.50694 0.81267 0.38665 0.79892 0.78052 0.30259 0.42254 0.47376 0.30953 0.76069 0.72454 0.26315	153E+00, - '24E+00, - '16E+01, - '03E+01, - '155E+02, 155E+02, 155E+02, 133E+02, 133E+02, 144E+02, 193E+01, - 194E+01, - 143E+01, -	RHXSh 0. 1908813E-02. 0.1850813E-02. 0.1850471E-02. 0.827212F-01. 0.0000000E+00. 0.131332E-02. 0.0000000E+00. 0.0000000E+00. 0.0000000E+00. 0.2470285E-01. 0.6838842E-03. 0.1060771E+02.	AHXS -0.3425847E+02, -0.3121109E+02, -0.1870297E+02, 0.0000000E+00, 0.2097E+02, 0.0000000E+00, 0.5126724E+02, 0.3042514E+02, 0.0000000E+00, -0.2235866E+02,	AHXSc 0.0000000E+00. 0.0000000E+00. 0.0000000E+00. 0.0000000E+00. 0.0000000E+00. 0.2797519E+02. 0.3042514E+02. 0.0000000E+00. 0.0000000E+00. 0.0000000E+00.	AHXSh0.3425847E+02, -0.3121109E+02, -0.3121109E+02, -0.1870297E+02, 0.0000000E+00, 0.0000000E+00, 0.0000000E+00, 0.0000000E+00, 0.0000000E+00, 0.0000000E+00, -0.0000000E+00, -0.2235866E+02, -0.2235866+0.2235866+02, -0.2235866+02, -0.2235866+02, -0.2235866+02, -0.	FS -2-1 -2-1 -2 -2 -2 -2 -2 1 -2 1 -2 -2 -2 -2 -2 -2
35426 35427 35429 35430 35431 35432 35433 35434 35434 35435 35436	6, 13, 0, Cooling Peak_E Cooling Peak_E Cooling Peak_E Cooling Peak_E Cooling Peak_E Cooling Peak_E Cooling Peak_E Cooling Peak_E	,17520, 1, 1, 1, 2, 1, 3, 1, 4, 1, 5, 1, 6, 1, 7, 1, 8, 1, 9,	, 0.234 7, 24, 8, 7, 7, 18, 8, 21, 7, 25, 8, 21, 7, 25, 8, 14, 8, 4, 9, 4, 8, 15,	AHXT=, AHXT=, AHXT=, AHXT=, AHXT=, AHXT=, AHXT=, AHXT=, AHXT=, AHXT=,	, 0.1059949E+03 0.5406718E+04, 0.5254480E+04, 0.5120857E+04, 0.5006907E+04, 0.4995203E+04, 0.4697781E+04, 0.44883E+04, 0.4472771E+04, 0.4452942E+04,	3, 0.3074442E+0; Date=,7/24(月) Date=,7/18(次) Date=,7/18(次) Date=,8/21(月) Date=,8/21(月) Date=,8/4(名) Date=,8/4(月) Date=,8/4(5(次)	, -0.2014490E+0 , Heat , Heat , Heat , Heat , Heat , Heat , Heat , Heat , Heat	ing Peak_[ ing Peak_[ ing Peak_ ing Peak_ ing Peak_ ing Peak_[ ing Peak_ ing Peak_ ing Peak_ ing Peak_	15E+03, ), 1, ), 2, ), 3, ), 4, ), 5, ), 6, ), 7, ), 8, ), 9,	0.18930 2, 13, 1, 23, 1, 10, 1, 16, 1, 30, 12, 18, 2, 14, 1, 4, 2, 6,	AHXT=, - AHXT=, -	0.5449712E+02, 0.3887293E+04, 0.3861550E+04, 0.3769476E+04, 0.30331554E+04, 0.3083993E+04, 0.3003891E+04, 0.3002391E+04, 0.2924995E+04, 0.2801976E+04,	0.4887241E+02, Date=,2/13(月) Date=,1/23(月) Date=,1/10(火) Date=,1/8(月) Date=,1/30(月) Date=,2/14(火) Date=,2/14(大) Date=,2/6(月)	0.1554035E+03,	-0.1065310E+03,	-2-1 1
35455 35456 35457 35458	(中略) Cooling Peak_D Cooling Peak_D Cooling Peak_D	, 28, , 29, , 30,	7, 20, 7, 13, 7, 31,	AHXI=, AHXT=, AHXT=,	0.3761746E+04, 0.3749222E+04, 0.3733836E+04,	Date=,7/20(木) Date=,7/13(木) Date=,7/31(月)	, .Heat , .Heat , .Heat	ing Peak_L ing Peak_E ing Peak_E	), 28, ), 29, ), 30,	2, 9, 2, 8, 1, 27,	AHXI=,- AHXT=,- AHXT=,-	0.2202832E+04, 0.2050982E+04, 0.2047023E+04,	Date=,2/9(木) Date=,2/8(水) Date=,1/27(金)	: :		
657462 35460 35461 35462 35463 35464 35465 35466 35466 35468 35469 35469 35470 35471 35472 35473	Cooling Peak_J Cooling Peak_J	, 1, , 2, , 3, , 4, , 5, , 6, , 8, , 10, , 11, , 13, , 14, , 15,	7, 24, 8, 7, 7, 18, 7, 18, 8, 21, 8, 21, 8, 14, 7, 24, 8, 28, 9, 4, 7, 31, 8, 7, 8, 7, 8, 7, 8, 7, 7, 19,	AHXT = , AHXT = ,	0.200000E+03, 0.200000E+03, 0.2000000E+03, 0.2000000E+03, 0.2000000E+03, 0.2000000E+03, 0.2000000E+03, 0.2000000E+03, 0.2000000E+03, 0.2000000E+03, 0.200000E+03, 0.1982458E+03, 0.1982458E+03, 0.1687758E+03, 0.1680553E+03, 0.1600214E+03,	Date=,7/24(月) Date=,7/18(火) Date=,7/18(火) Date=,7/18(火) Date=,8/21(月) Date=,8/4(月) Date=,8/4(月) Date=,8/28(月) Date=,8/28(月) Date=,8/7(月) Date=,8/7(月) Date=,8/1(月) Date=,8/21(月) Date=,7/19(水)	08:00:1.,Heat 08:00:1.,Heat 08:00:1.,Heat 08:00:1.,Heat 08:00:1.,Heat 08:00:1.,Heat 08:00:1.,Heat 08:00:1.,Heat 08:00:1.,Heat 08:00:0.,Heat 08:00:0.,Heat 08:30:0.,Heat	ing Peak_ ing Peak_	1.         1.           1.         2.           1.         3.           1.         3.           1.         5.           1.         5.           1.         5.           1.         7.           1.         9.           1.         11.           1.         11.           1.         11.           1.         11.           1.         11.           1.         11.           1.         11.           1.         11.           1.         11.           1.         11.           1.         11.           1.         11.           1.         11.           1.         11.           1.         11.	2, 13, 1, 23, 1, 10, 1, 4, 2, 27, 2, 6, 2, 20, 12, 18, 3, 20, 12, 25, 3, 6, 3, 22, 1, 30, 1, 16, 1, 10,	AHXT = , - AHXT = , -	0.200000E+03, 0.200000E+03, 0.2000000E+03, 0.2000000E+03, 0.2000000E+03, 0.1874499E+03, 0.187449E+03, 0.1789516E+03, 0.1789516E+03, 0.1786591E+03, 0.1786591E+03, 0.1685146E+03, 0.1685146E+03, 0.1685249E+03, 0.1652639E+03, 0.1599132E+03,	Date=,2/13(月) Date=,1/23(月) Date=,1/23(月) Date=,2/27(月) Date=,2/27(月) Date=,2/20(月) Date=,3/20(月) Date=,3/20(月) Date=,3/22(F) Date=,3/22(F) Date=,1/26(月) Date=,1/26(月) Date=,1/26(月)	08:00:1, 08:00:		

・見出しは2行、3~35043行は時刻別出力、35046~35410行が日積算、35413~35424行が月積算、35426行が年積算、 35428~35457行が日積算ピーク情報(上位30位)、35459~364558行が時刻ピーク情報(上位1000位)です。

・グラフ用に熱負荷を冷暖別に分けるなど項目数が増えています。

#### (3) 結果のグラフ/年間計算・詳細出力のグラフ

- ・最後に、計算結果をグラフにします。
  - グラフ用の Excel ファイルのうち、ケース1の条件に合う Graph\_年\_詳細.xlsm を立ち上げます。 ※年間計算とピーク計算、また、詳細出力と簡易出力とでは、データ数やデータ構成に違いがあるので、 条件が一致しないとグラフが描けません。

手順⑪ <Graph>の画面⑪の2行目にある 選択 のボタンをクリックします。



<sup>※</sup>Graph の Excel ファイルには3 つの sheet かありますか、ユーサーか操作するのは<Graph >の画面の sheet です。他は仕掛け用の sheet です。厳密な保護は掛かっていないので操作可能ですが、これが壊れるとグラフ が描けなくなります。開いても構いませんが触らないで下さい。



# 2-2 ケース2:ピーク計算・詳細出力

・ピーク計算は冷房と暖房をセットで両方計算します。順不同ですが、ここでは、冷房⇒暖房の順に計算し、最後に冷房と暖房を一緒にグラフ化します。

# (1) 冷房ピーク計算の入力データの変更

・変更するのは ①の COMMON の画面の<CNTL>と<BUIL> です。

# 出力形式・気象データ

	┌ 緯度·経度	は入力不要(Inp	では自動入力	hasHではファー	イルから直接入	.カ)		┌ 時差は入力	不要(Inpでは自動入)	カ、hasHではファイル	から直接入力)	
建物概要	緯度	経度	軒高	地物反射率	基準温度	基準湿度	限界日射取得	時差		気形式 都市名ラフ	アイル名の通	建物概要
	[廣分]	[度分]	[m]	[%]	[°C]	[%]	[W/mi]	UTC $\pm$ [h]	都市名	気象データのファ	イル名	
BUIL			30.2	10	24.0	50	200		東京	3630C 10_SI hasH		
	南緯は一値	西経は一値	der	fault→ 10	24.0	50	200	9	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			- 複数指定不可。1
└複数行指定不可			A selfer & EA	8110 C 10 10	iku LNR 4	3630 Japan	Tokyo	35414N 1394	56ET= 9.00H= 6	5 P VH= 250		
	<b>i</b>		·9— –		計算期間	a	—	太陽位置。	人の発熱	時区分数		
計算制御	計算 出力	雲重 SI	データー	动走開始	本計算開	<u>10</u>	+算終了	計算计算日	基準	nJM	PEAK	計算制御
<u> </u>	モード 形式	- E K E K	形式年	月日	年月	日年	月日	サイクル 間隔	温度	1~12	<u>熱負荷</u>	
ONTL	1:ピー 1:詳細	出力	1:ビーク気象	12 15	1	1	12 31	15 1	1:TR(設計室温基準	2	AHXT	* ONTL
l de fault→	0 0	0 0		12 15	1	1	12 31	15 1	1 ← de fault	1 ← de fault	AHXT	御数指定不可。1
		- 10			2.0 2.	⇒1 <i>b</i> /b		1.2.2				
<cntl></cntl>	・計算	モード		1:	ビーク	計算	に変更	します。				

- ・気象データ形式
   1:ピーク気象データ
   に変更します。
  - ・計算サイクル 15:ピーク計算の反復回数 (ピーク計算の時に参照されます)
- 〈BUIL〉 ・都市名 東京 (気象データ形式を変更するとクリアされるので、改めて入力します)
  ・冷房ピーク気象データ 3630C\_10\_SI. hasH (東京・冷房 h-t 基準・SI 単位, hasH 形式)
  ※ 気象データ形式 ⇒ 都市名 ⇒ 気象データファイル名 の順に入力します。
  これらは "リスト表示" されるのでリストの中から選択します。

# ② 発熱割合 (入力データには変更ありません)

	LI	GH(照日	明)	0	CUP(人	.)	HEA	AT(機器	<b>器類)</b>		
発熱割合	夏期	冬期	中間期	夏期	冬期	中間期	夏期	冬期	中間期		発熱割合
	[%]	[%]	٢%]	[%]	[%]	[%]	٢%]	٢%]	٢%]		
HRAT	70	70	70	70	70	70	70	70	70	⇐ 標準気象データ等の場合に読み込まれる	* HRAT
HRAT S	100	100	100	100	100	100	100	100	100	← 気象データが夏期ピーク(_S)の時に読み込まれる	* HRAT
HRAT W	20	20	20	20	20	20	20	20	20	⇐ 気象データが冬期ピーク(_W)の時に読み込まれる	* HRAT
	100	100	100	100	100	100	100	100	100	←default	複数指定不可。1

〈HRAT〉 ・HASPinp では年間・冷房・暖房の3行入力します。

・気象データのファイル名 3630C\_10\_SI. hasH によって年間か冷房か暖房かを判別して
冷房ピーク気象データなら、11カラムが "S"の2行目が自動的に選ばれます。
※ピーク気象データファイル名の "C"または "S" が〈HRAT〉の "S" に対応します。

## ③ カレンダー(変更ありませんが、ピーク気象データにも日付があります。特別日の入力と重ならないようにします)

# ④ 予熱時間数 (入力データには変更ありません)

		-		スケジュ	.∽# 1							スケジュ	-l 2							スケジュ	∽∥ З					-	
運転	OSCH	運転服	肺線了	運転開	肺線了	運転開	始終了			運転開	始終了	運転開	始終了	運転開	始終了			運転開	始終了	運転開	始終了	運転開	始終了	7		- 運転	
スケジュール	命名	時刻	時刻	時刻	時刻	[時刻]	時刻			時刻	時刻	時刻	時刻	時刻	時刻			時刻	時刻	時刻	時刻	時刻	時刻	_		- スケジョー/	ι
OSCH	OSC	8:00	20:00																							-OSCH	
OSCH	OSH	8:00	20:00																							-OSCH	
半角	<b>1</b> 3文字以		WSCH	ത[1]0	刀曜日	に対応					WSCH	ത[2]0	「曜日に	こ対応					WSCH	J[3]∂	り曜日日	C対応				-	
大文	大文字の英数字 ※ ※ 0.00の運転開始は計算開始日 のみに有効です。												-														
																										-	
外気 運転終了								——頁期——————————————————————————————————														-					
運転条件	OPCO	線入開始	SCH-1	SCH-2		OSCH	DB上限	下限	<del>3</del> H上限	下限	子熱	OSCH	DB上限	下限:	升上限	下限	子熱	OSCH	DB上限	下限	刊上限	下限	子熱	外氨導	入重	- 運転条(	件
	命名	<u>時刻</u>	陸橋	陵帽	-	引用	[°C]	[°C]	[%]	[%]	時間	引用	[°C]	[°C]	[%]	[%]	時間	引用	[°C]	[°C]	[%]	[%]	時間	[m3/m/	2h]	-	
OPCO	OPC1	6:00	l			OSC	26	26	50	50	1:00	OSH	22	22	40	40	2:00	OSC	24	24	50	50	1:00	4.0		- OPCO	
OPCO	OPC2	6:00				OSC	26	26	50	50	1:00	OSH	22	22	40	40	2:00	OSC	24	24	50	50	1:00	. <b>▼</b> 10		- OPCO	
半角	<u></u>	内			-		26	26	50	50	1:00		22	22	40	40	2:00		24	24	50	50	0:00	0.0		-	
大文	字の英	数字									※子	熱終了	が24時	または	運転停	止時刻	を超え	る場合	す、その	時刻て	子熱病	了にな	£りま 3	f.		-	

※「ピークモードの計算」を計算を選んだ場合にのみ、<OPCO>の予熱時間が参照されます。

上記の例では、夏期の予熱時間数は1.0時間、冬期は2.0時間、中間期は1.0時間です。
 ※中間期の予熱時間はACLD\_HEX15の独自機能です。NewHASP/ACLD および NewHASP\_2 では中間 期の予熱時間は0時間になります。

<OSCH〉・空調はいずれも8:00 運転開始で、20:00 に運転停止です。

<0PC0>・夏期では、8:00 に予熱を開始して、予熱は1時間で、9:00 に予熱完了です。

※「ピークモードの計算」では、予熱時間帯の除去熱量は一定値としますが、その値は未知数です。 予熱完了時に、室温湿度が設定条件になるように予熱時間帯の除去熱量の値を解きます。 なお、予熱時間帯の以外では、シミュレーションモードで計算しますが、ピークモード計算では装置 容量の制限を設けません。よって、ピーク熱負荷が予熱時間帯以外の時間に発生することがあります。 ※「ピークモードの計算」でも、室温湿度の設定値に上限と下限を設けることができます。

予熱終了時に室温湿度が上限と下限の間に入る場合は、予熱時間帯の除去熱量はゼロになります。

#### (2) 冷房ピーク計算のプログラムの実行

#### 2F) 冷房ピーク計算のプログラムの実行1/ファイル変換

- ・<ZONE>の画面で、ファイル変換 ⇒ 熱負荷計算 ⇒ Zone 集計 の順にプログラムを実行します。
  - 手順① <ZONE>の画面で①「ファイル変換」のボタンをクリックします。



# 2L) 冷房ピーク計算のプログラムの実行2/熱負荷計算

手順⑤ <ZONE>の画面で⑤「熱負荷計算」のボタンをクリックします。



表 2-2-Lc に熱負荷計算の結果(MFW\_C. csv の例)を示します。

### 22) 冷房ピーク計算のプログラムの実行3/ゾーン集計

- ・ゾーン集計は元々の HASP にはない、HASP inp 独自の機能です。
  - ・1つの室(SPAC)であってもゾーン集計をします。HASPinpのゾーン集計には、(SPAC)の結果を集 計する機能の他に、日月年の積算やピーク情報を集める機能があります。これらはグラフ作成に 必要な情報としてゾーン集計の中で作られます。
  - 手順⑧ <ZONE>の画面で⑧「ゾーン集計」のボタンをクリックします。

	A B C D E F G H I     SPAC" → "ZONE" → "Mzone" → "Tzone" と段階Atura     2	J     K     L     M     N     O     P     Q     R     S     T       A59- 生計する     アケル変換     熱負荷計算     Zone集計
手順⑨	続いて、小窓⑨で「HASP_zone を実行しますか?」と 表示されるので、OK ボタンをクリックします。	9 Microsoft Excel ×
手順⑪	ゾーン集計プログラム HASP_zone. exe が立ち上がり、 実行が開始されると、DOS 窓⑩が表示されます。	ゾーン集計 HASP_zone を実行しますか? OK
	C:WINDOWS¥system32¥cmd.exe     Program Version = HASP_zone Ver.20220330     .*. ¥sampleC_Input.txt     .*. *. Ybata*Weather*Japan¥PeakWD¥3630_Tokyo¥3630C 10_S1.hasH     .*. *. Ybata*Weather*Japan¥PeakWD¥3630_Tokyo¥3630C 10_S1.hasH     .*. *. YHASP¥NewHASP-ACLD¥Exec¥wndwtabl.dat     .*. *. *. YHASP¥NewHASP-ACLD¥Exec¥wndwtabl.dat     .*. *. *. YHASP¥NewHASP-ACLD¥Exec¥wndwtabl.dat     .*. *. *. *. *. *. *. *. *. *. *. *.	- C ×

- ・DOS 窓⑩には、集計中のゾーン名が表示されます。
- ・計算が完了すると DOS 窓⑩に "HASP\_zone Completed" と表示されます。
   #### 終了 #### はバッチの終了表示です。

・ゾーン集計で出力されるファイルは、

SPAC\_MFW\_C.csv と SPAC\_MFE\_C.csv と ZONE\_ZMF\_C.csv です。

ゾーン集計の出力ファイル名の頭には、SPAC、ZONE、Mzone、Tzone が付くので、元の熱負荷計算の 出力ファイルと区別できます。

ファイル名の末尾には、ピーク気象データのファイル名 3630C\_10\_SI. hasH から取った記号 "C" が付けられます。これにより、年間計算や次節の暖房ピークの出力ファイルと区別できます。

- ・この後の手順⑪でグラフを描きますが、HASPinpのグラフはゾーン集計の出力ファイルを使います。
- ・表 2-2-Zc に、Zone 集計の結果 (SPAC\_MFW\_C. csv の例) を示します。

# (3) 暖房ピーク計算の入力データの変更

- ・冷房ピークの計算が終わったので、次ぎに暖房ピークの計算に移ります。
- ・変更するのは①の COMMON の画面の 〈BUIL〉の「気象データのファイル名」だけです。

#### 出力形式・気象データ

建物概要	緯度	経度	軒高	地物反射率	基準温度	基準湿度	限界日射取得	時差		タ形式→都市名→フ	マイル名の順	建物概要
	[度分]	[度分]	[m]	[%]	[°C]	[%]	[W/m]	UTC ±[h]	都市名	気象データのファ	イル名	
BUIL			30.2	10	24.0	50	200		東京	3630H 12_SI hasH		
<u> </u>	<mark>南緯は</mark> −値	西経は一値	det	fault→ 10	24.0	50	200	9	1~4/4	~5/5		複数指定不可。
「複数行指定不可	য		hasH = * EA	8110 H 12 10	ikJ LNR 4	3630 Japan	Tokyo	35414N 1394	56E T= 9.00 H= 6	5 P VH= 250		
			g 🔶		計算期間	a		- 大陽位置	人の <mark>発</mark> 熱	時区分数		
計算制御	計算 出力	雲重 SI	データ 👂	助走開始	本計算開	始 1	計算終了 🦷	計算計算日	基準	nJM	PEAK	計算制御
	<u>モード 形式</u>	<u> モード モード</u>	形式年	月日	年月	日年	月日	サイクル間隔	温度	1~12	熱負荷	
CNTL	1:ビー1 詳細	出力	1:ビーク気象	12 15	1	1	12 31	15 1	1:TR(設計室温基準	2	AHXT	* ONTL
de fault-		0 🐧		12 15	1	1	12 31	151	1 ← de fault	1 ←default	AHXT	複數指定不可。1
「複数行指定不可	J	「二字重モード	とSIモードは入	力不要Onpでは	自動入力、has	Hではファイル	から直接入力)					
<cntl></cntl>	・計算	モード		1:	ピーク	計算	(変更	が無いこ	ことを確認	します)		
	・計算	サイク	ル	15	i : ピー	ク計算	の反復	回数	(変更が無	いことを確	催認 しま	す)
	・気象	データ	形式	1:	ピーク	気象デ	ータ	(変更)	が無いこと	を確認しま	ミす)	
<buil></buil>	・都市	名		東	凉(	変更が	無いこる	とを確認	ふします)			
	・冷房	ピーク	気象デ	ータ	3630 <mark>H</mark> _	12_SI.	hasH	(東京・	暖房 t-x	基準・SI 単	单位, hasl	H形式)
	※ 気象	データ	形式、	都市名は	は変わら	うないの	ので、身	気象デー	-タファイ	ル名のみ	☆変更し	ます。

#### ② 発熱割合 (入力データには変更ありません)

		LIC	GH(照明	月)	0	CUP(人	)	HEA	T(機器	類)		
発熱割合		夏期	冬期	中間期	夏期	冬期	中間期	夏期	冬期	中間期		発熱割合
	_	٢%]	٢%]	[%]	٢%]	[%]	[%]	٢%]	٢%]	[%]		
HRAT		70	70	70	70	70	70	70	70	70	⇐ 標準気象データ等の場合に読み込まれる	* HRAT
HRAT	S	100	100	100	100	100	100	100	100	100	⇐ 気象データが夏期ピーク(_S)の時に読み込まれる	* HRAT
HRAT	W	20	20	20	20	20	20	20	20	20	⇐ 気象データが冬期ピーク(_W)の時に読み込まれる	* HRAT
		100	100	100	100	100	100	100	100	100	←default	複数指定不可。1
<hrat></hrat>		• H	IASP	linp	で	は年	間	・冷	·房	・暖	房の3行入力します。	

・気象データのファイル名 3630H\_12\_SI. hasH によって冷房か暖房かを判別して
 暖房ピーク気象データなので、3行目が冬期の"₩"が自動的に選ばれます。
 ※ピーク気象データファイル名の"H"または"₩"が

#### ③ カレンダー(変更ありませんが、ピーク気象データにも日付があります。特別日の入力と重ならないようにします)

#### ④ 予熱時間数 (入力データには変更ありません)

779'1-1	L 1	スケジョール :	2	スケシュール з	-
運転 OSCH 運転開始終了運転開始	終了 運転開始終了	運転開始終了 運転開始終	了運転開始終了	運転開始終了 運転開始終了 運転開始終了	一 這里車五
スケショール 命名 時刻 時刻 時刻 8	寺亥山 [時寺亥山] 時寺亥山	時刻 時刻 時刻 時刻	<u>川時刻時刻</u>		- <u>スケショー</u> ル
OSCH OSC 8:00 20:00					-OSCH
OSCH OSH 8:00 20:00					- OSCH
半角3文字以内、WSCHの[1]の日	留日に対応	WSCHの[2]の曜日	日に対応	WSCHの[3]の曜日に対応	-
大文字の英数字	<mark>※0:00</mark> の運車	記開始は計算開始日のみ	に有効です。		-
					-
外氨 運転終了			冬期【		-
運転条件 OPCO 線入開始 SCH-1 SCH-2	OSCH DB上限 下限 RH上限	下限 子熱 OSCH DB上	限 下限 升上限 下限 子熱	熱 OSCH DB上限 下限 RH上限 下限 子熱 外気導	入量 - 運転条件
	<u>引用 [°C] [°C] [%]</u>	[%] 時間 引用 [°C]	] [°C] [%] [%] 時間	間 <mark> 6 用 [°C] [°C] [%] [%] 時間 [m3/m</mark> 2	h] –
OPC0 OPC1 6:00	OSC 26 26 50	50 1:00 OSH 2	2 22 40 40 2:0	00 DSC 24 24 50 50 1:00 4.0	- OPCO
OPC0 OPC2 6:00	OSC 26 26 50	50 1:00 OSH 2	2 22 40 40 2:0	00 <mark>0SC</mark> 24 24 50 50 1:00 - 0.0	- OPCO
半角4文字以内	26 26 50	50 1:00 2	2 22 40 4 <b>0</b> 2:0	00 24 24 50 50 0:00 0.0	-
大文字の英数字		※予熱慾了が24	時または運転停止時割を調	昭紀る場合、その時刻で予執完了になります。	-

※「ピークモードの計算」を計算を選んだ場合にのみ、<OPCO>の予熱時間が参照されます。

・上記の例では、夏期の予熱時間数は1.0時間、冬期は2.0時間、中間期は1.0時間です。

<OSCH> ・空調は、いずれも8:00 運転開始で、20:00 に運転停止です。

<0PC0> ・冬期では、8:00 に予熱を開始して、予熱は2時間で、10:00 に予熱完了です。

※ピークモードの計算と室温湿度の設定値の上下限については前節(2)の冷房ピークの補足を参照して 下さい。

※この入力例では 運転開始時は年間計算、冷房ピーク、暖房ピークで共通の8:00 としています。 予熱時間は、冷房ピークでは1時間、暖房ピークでは2時間としています。このため、室温が設定温 度になるのは、冷房ピークが9:00、暖房ピークが10:00 です。

暖房ピークで室温が設定温度になるのを9:00にする場合は、<OSCH>の"OSH"の運転開始を7:00にします。なお、この場合、年間計算でも冬期の運転開始は7:00になります。

# (4F) 暖房ピーク計算のプログラムの実行

## 4F)暖房ピーク計算のプログラムの実行1/ファイル変換

- ・<ZONE>の画面で、ファイル変換 ⇒ 熱負荷計算 ⇒ Zone 集計 の順にプログラムを実行します。
- 手順① <ZONE>の画面で①「ファイル変換」のボタンをクリックします。

1 A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T \*SPAC ファイル変換 熱自荷計算 Zone集計 手順② 右の小窓②が出るので、例えば "sampleH" Microsoft Excel  $\times$ と入力して、OK ボタンをクリックします。 ファイルの識別名を入力してください。 0K ※出力ファイルは、【指定したファイル名\_COMMON.csv】、 キャンセル 手順③ 続いて、小窓③で 【指定したファイル名 SPAC.csv】、 【指定したファイル名\_ZONE.csv】となります。 「ファイル出力 HASP\_inp を実行しますか」 sampleH の表示が出るので、OKボタンをクリックします。 Microsoft Excel 手順④ HASP\_inp. exe が起動すると、DOS 窓④が表示されます。 下から3行目の ファイル出力 HASP\_inp を実行しますか? "HASP\_inp Completed"の表示が出れば処理完了です。 #### 終了 #### はバッチの終了表示です。 ОК ※出力される入力データファイルは 國 選択C:¥WINDOWS¥system32¥cmd.exe "sampleH\_Input.txt" Started Ver. になります。(⇒表 2-2-F) rogram Time Limit =21001231 Fname\_COM = ...¥...¥KeepOut¥CSV\_inp¥sampleH\_COMMON.csv Fname\_SPAC= ...¥...¥KeepOut¥CSV\_inp¥sampleH\_SPAC.csv FNAME\_INP = ...¥...¥sampleH\_Input.txt IASP inp Ver.20220330 Completed #### 終了 #### 4L)暖房ピーク計算のプログラムの実行2/熱負荷計算 手順⑤ <ZONE>の画面で⑤「熱負荷計算」のボタンをクリックします。 C D E F G H I J <u>K</u> L M N O P Q R S T A B ファイル変換 熱負荷計算 Zone集計 戻る 手順⑥ 続いて、小窓⑥で「ACLD\_HEX15 を実行しますか?」と表示 Microsoft Excel  $\times$ されるので、OK ボタンをクリックします。 ACLD\_HEX15 を実行しますか? 手順⑦ ACLD\_HEX15. exe が起動して、熱負荷計算が実行されると DOS 窓⑦が表示されます。 "NRM=1"や"NRM=2"は計算中の SPAC の番号です。 ОК "iPEAKcycle=12/15"は計算中の反復回数と最大反復回数 です。 計算が完了すると DOS 窓⑦に C:¥WINDOWS¥ rk¥ACLD HEX15 Inp¥K "ACLD HEX15 Completed" と表示されます。

#### 終了 #### はバッチの終了表示です。 ・熱負荷計算で出力されるファイルは MFW H.csv E MFE\_H.csv と weath\_H. dat です。 ピーク計算の場合の出力ファイルには、 気象データの 3630H 12 SI. hasH の"H" が 出力ファイル名の末尾に付けられます。

表 2-2-Lh に熱負荷計算の結果(MFW H. csv の例)を示します。

